

あおぞら財団 年次報告書 Vol.4

2000.4~2001.3

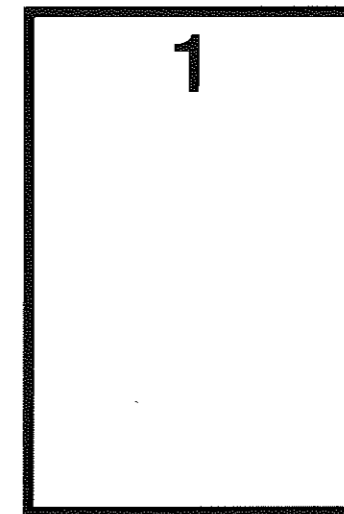
2001年7月



財団法人 公害地域再生センター (あおぞら財団)

もくじ

| | |
|-------------------|----|
| 1.活動の記録 | 1 |
| 2.マップづくり | 23 |
| 3.財政報告 | 35 |
| 4.インターンレポート | 39 |
| 5.報告書と資料 | 43 |



活動の記録

2000年4月から2001年3月までの活動を「地域づくり」「公害経験」「広報・活動交流」「財政と組織」にわけてまとめました。

<地域づくり>

参加型調査推進事業

『手渡そう川と島とみどりのまち』の普及と対話

財団のこれからの地域活動のマスタープランである同冊子を、西淀川区内のさまざまな機関・住民団体などに配布し、紹介した。同冊子の中で当面の焦点として位置付けた道路公害問題、とりわけ歌島橋交差点工事をめぐる対話、地元でのNO₂簡易測定運動への協力などをきっかけに、「まちづくり考える会」が発足。区内の各種住民運動団体や医療機関、業者団体、労働組合などが団体ないし個人として参加(会費制)する新しい運動がスタートした。財団としては、オブザーバー参加ながら、事務局に傘木研究主任を派遣し、政策づくりに協力している。

同会はこの間、歌島橋交差点問題と区役所建替え計画をめぐって、集会や各校區別懇談会、シンポジウム、区役所や建設省、公安委員会、沿道主要企業などとの懇談・申入れ活動などを展開し、それらを成功させるために政策チラシの全戸配布や町会への申入れ活動など、活発な活動を進めている。このような取り組みの中から、「道路・交通環境しらべ」



(11/25)は、区内の婦人団体とのタイアップで親子連れで交差点周辺の環境を調べるといふ新しい取り組みの形態となった。

同会の取り組みに対して、区役所は「既成の町会組織だけではなく、積極的・建設的な意見を持つグループとの連携が必要」と公言し、建設省は工事内容の変更を含めて協議を進めることを約束するなど、多大な成果をあげている。同会は、西淀川のまちづくりの中核的な存在となることをめざしており、財団としてもマスタープランを実践していく立場からこれに積極的に関わり、貢献していくことが重要となっている。

「身のまわりの環境診断マップづくり」活動の普及・実践

昨年度の環境庁請負業務として作成した「つくってみよう身のまわりの環境診断マップ」が好評を得て、発行から半年足らずで18,000冊が全国の自治体や学校、個人に普及され、増刷後も注文が続いている状況である。



財団では同冊子をテキストにさまざまな取り組みを進めている。今年2年目となる「身のまわりの環境マップコンクール」は、区小学校長会場で参加要請する機会を得るなどして、さらに参加協力小学校及び学童保育所を増やし、

ユニークな作品が集まり、20作品による展示会を開催した(1/22-27)。その他、財団主催事業では、環境診断マップづくりのワークショップ(7/8)、前出の道路・交通環境しらべ(11/25)で活用している。また、春日井市健康都市づくりワークショップ(5/20)、鯖江市環境リーダー養成講座(8月~12月)、神戸市シルバーカレッジ生活環境講座(11/22)、環境事業団地球環境市民大学校・環境アセスメント講座(2/3-4、福山市)、ボーイスカウト淀川北地区環境セミナー(2/18)で講師を務めた。

財団では、まちづくりたんけん隊活動や原風景・原体験ほりおこし活動などで蓄積してきたノウハウを、社会的に還元し、業務として開拓する条件を見出すことができることから、これを修練させて、市民参加型のアセスメント事業として構築していくことを第12回理事会で議論し、確認した。

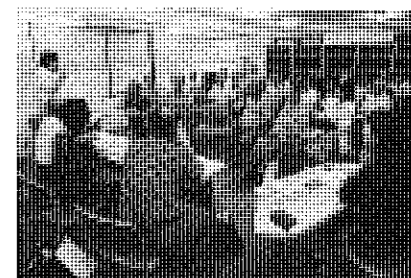
これを踏まえて、「住民参加による環境影響評価手法に関する調査」を企画したところ、平成12年度の環境省請負業務として取り組むこととなった。

西淀川の戦中・戦後展の開催

西淀川地域資料室では、生活史をテーマに、

震災展や生き物展、産業展などを開催してきた。今年度は、小山仁示・関西大学教授の監修の下、「西淀川の戦中・戦後展」を開催した(8/23-28)。これは、地域の戦争体験や空襲に関わる諸事実を掘り起こし、多くの地域住民の共感を呼び、6日間で約250人の来館者数と、かつてない数と広がり

を見せた。この取り組みを通じて、地域資料室の存在と財団の地域に



学ぶ姿勢を鮮明に打出すことができた。

西淀川地域資料室は、マスタープランが示すところの参加型調査・学習活動の拠点である。環境庁の総合学習ゾーンモデル事業の拠点施設としての指定もあり、学校関係者や子どもらの来館も増えている。電話やFAX、インターネットなどを通じた問い合わせも多くなっている。それに伴う職員の負担もまた問題となりつつある。資料やレファレンス機能の向上とともに、体制の整備について検討を深める必要がある。

私のおきのおき

環境NGO政策提言フォーラム(2001.7.11)の会場で出くわした3人で酒宴。この1年程の間に知り合ったメンバー。写真右側から、クリーンアップ全国協議会代表の小島さん、サウスウェーブ代表の広瀬さん、そして私。環境分野の市民活動といっても分野は広く、私にとっては全くの異分野のお二人。いつも思いも及ばない発想に刺激をいただいている。この日は、私の郷里の湖で夏に開催される灯篍流しの演出をめぐって話に花が咲いた。

(傘木宏夫)



道路環境対策事業

環境TDM社会実験の実現をめざす取り組み

財団は、昨年度に西淀川公害患者と家族の会の委託に基づき作成した「西淀川道路環境再生プランPart3」に基づき、これを普及し、関係各方面と対話する活動を展開した。また、情勢の進展を踏ま

えて、国や関係機関への意見書を適宜作成・提出したり、「阪神地域環境TDM社会実験のご提案」(6月)を発表してきた。

これらは、朝日新聞社説やサンテレビ特集番組をはじめ、マスコミを通じて広く紹介された。こうした反響を受けて、関西の2府4県と経済団体で構成する関西広域連携協議会においてこれを発表し、トラック協会や自動車工業会などと意見交換する機会を得た。委託元である西淀川公害患者と家族の会に対しては、第29回総会(10/21)に向けて活動報告書を作成し、総会場で報告を行った。

社会実験提案は、関係方面に大きな影響を与え、2002年度本格実施に向けて来年度政府概算要求に調査費が計上されるとともに、今年度の準備調査費が確保された。これを受けて、昨年度の西淀川区内での調査成果を踏まえて、大阪市内臨海部に広げた事業所アンケートを実施した。この中間集計に基づき、関係機関や事業所へのヒアリング(3/14-15)、大阪工業団



地協会加盟の貨物運搬業者との懇談会(3/16)を開催し、関係各方面との連携を模索している。

また、自動車NOx法の見直しに関わって、中央環境審議会大気・交通公害合同部会において意見陳述(7/7)を行う機会を得るとともに、同部会中間報告書や最終とりまとめ案に対する意見書を提出した。同審議会大気生活部会の騒音対策のあり方に対する答申案に対しても意見を提出した。中央環境審議会での新環境基本計画の検討、大阪府における新環境総合計画の策定のそれぞれに対しても、道路公害対策に関わって意見を提出・陳述した。

全国の道路公害反対住民運動と連携する活動

全国公害患者の会連合会や公害被害者総行動実行委員会などの取組みに積極的に参画するとともに、川崎、尼崎、名古屋の各道路公害訴訟との連携を進めた。また、道路建設による生活破壊に反対する各地の住民運動(須磨、西宮、茨木、枚方、京都、福山、広島など)の求めに応じて講師派遣や情報提供を行っている。

このうち、須磨区天神町自治会は、これまでの運動の成果として自治会側が指名するコンサルによる設計図で道路を建設することで当局との合意が成立し、住民意見の集約と設計管理をするコンサルとしてあおぞら財団を指名している。土木系コンサルのグループと共同で対応する方向で調整を進めている。

都市環境再生政策形成事業

環境再生国際ワークショップの実現をめざす活動

G8環境大臣会合(滋賀)におけるNGO共同行動については、全国からのアピール賛同者等に報告書を作成して配布した。また、共同行動での合意に基づき、沖縄サミットに向けた国際環境NGOフォーラム(沖縄環境ネットワーク主催)やNGOセンターの取組みに協力した。

NGO共同行動とその後の働きかけが実って、環境再生に関する国際ワークショップの開催が来年度政府概算要求に計上されることとなった。昨年9月に北九州市で開催された「アジア・太平洋環境大臣会議 in 北九州」に基づく北九州イニシアティブの国際会議にあわせた形で企画が検討されている。この具体化に向けて、担当理事のイニシアティブで相談会がこの間に3回開催されている。

また、今年度、環境国際ワークショップに向けた基礎資料の作成を念頭に、国内の環境再生活動に関する事例調査の業務を環境庁地球環境部より請け負った。現在、NGO共同行動関係者やNPO政策研究所などと連携して事例収集を進めている。

環境保健推進事業

園芸リハビリテーション活動

「ふくの庭」は2年目となり、週2回に増え

都市環境再生の政策形成に向けた取組み

専門家や環境庁及び環境事業団、公害健康被害補償予防協会の職員有志を交えた自主研究「都市環境再生政策形成研究会」は4回開催して、一旦終了し、とりまとめを進めている。この研究会での知見を踏まえて、都市再整備時のオープンスペース整備における大気生活環境施策(騒音・振動・悪臭対策、音環境やかおり環境、ひかり環境の創出など)のあり方に関する調査を、環境庁大気保全局からの請負業務として実施することとなった。現在、(株)関西総合研究所や北元敏夫氏(特別研究員)の協力により事例整理を進めている。

また、昨年度に引き続き、国の新環境基本計画の策定に際して環境再生の政策を反映すべく、中央環境審議会への意見書提出や環境庁担当課及び個別委員への働きかけなどに取組んだ。環境再生に関しては、現行計画にはなかった概念であるが、新計画案では「環境再生」や「負の遺産」、大都市部における地域づくりや交通公害対策などが新規ないし大幅に補強する形で位置付けられた。

同様に、大阪府の環境総合計画の見直しに向けて府審議会で見聞陳述をするるとともに、関係者への情報提供を進めている。

たプログラムも太田周作氏(特別研究員)の指導により順調に終了した。参加している患

者の満足度も概ね高く、評価会での隣所為の評価も高かった。各方面からの見学・取材も多く、7月には川口順子環境庁長官も視察した。



また、地域社会との交流として、アースデイ関連行事(4/22、アース基金協会のアースデイイベントコンクールに参加し、受賞)、園芸教室などを盛り込んだ「秋の実りを楽しむ会」(11/3)などを実施した。また、これらの取り組みや日常的な庭の管理に、有償ボランティアとして永野氏(原告遺族)が献身的に従事して下さった。しかし、児童遊園の管理者である地元復興町会より明け渡しを求められ、12月末までに「ふくの庭」は撤収することとなった。これを受けて、来年度は、区内の佃地区において、一人暮らしのお年寄りのデイサービス施設として区内有志により開設された「ひまわりの家」の庭をお借りして、公害患者の在宅福祉支援型の園芸リハビリテーション活

動として展開することとなった。

この間の取り組みを整理して、第4回園芸療法研究会西日本研究・実践発表会に矢羽田研究員と太田特別研究員の連名で発表した(2/25)。

羽曳野病院での小児患者を対象にしたプログラムは、有償ボランティアの田中鈴代さん(1998年度の園芸療法を活用したリハビリテーションの実践者育成勉強会受講生)のコーディネートにより順調に進められている。5月には難治性喘息・アレルギー学会において会長賞を受賞するなど、4年目となる活動の実績が評価されている。同病院のアレルギー小児科とは、来年度までプログラムを継続し、再来年度に大阪で開催される前出学会にその成果を反映させていくことを確認している。現在、評価会に向けた作業を進めている。

転地療養事業への協力

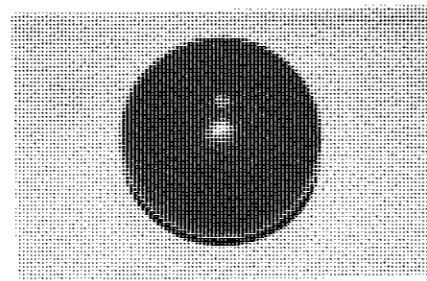
西淀川公害患者と家族の会による春と秋の転地療養事業に参加してきたが、今秋より、財団職員の参加の位置付けを明確化し、公害患者の療養生活を知る観点から、サポーターとして随行することを確認し、実施した。

私のとっておきの出会い

去年のクリスマスイブ、大阪市内某所で開催されたイベントの実行委員をやっていた。その約半年前、10数人のメンバーが集まった。決裂あり、憎悪あり、疑心ありetc.の準備作業を一体、誰が予想したであろうか。写真のボールは、イベントで使用した小道具のひとつ。20世紀から21世紀へ、無事その任を終え、今では何事にも代えることの

できない出会いがここに凝縮されている。

(片岡法子)



<公害経験部門>

公害問題資料保存事業

公害健康被害補償予防協会からの受託業務である大気汚染公害問題に係る被害者・住民運動資料の保存のあり方に関する調査研究は3年目となり、現在最終報告書の作成を進めている。この間の働きかけにより、来年度以降も関連するテーマの調査研究を継続することが関係機関との間で確認されている。

公害問題資料研究会(座長:芝村篤樹・桃山学院大学教授)を中心とする環境庁文書の保存に関する緊急アピール活動は、歴史学や資料保存、環境問題などの専門家の賛同を多く集め、環境庁に再度の申入れを行った。その際、東京で研究会を開催し、今後、公害・環境問題資料の保存・研究に関わる交流会を各地巡廻で実施することなどが確認された(Libella 2月号参照)。取り組みの反映として、新環境基本計画の策定等に公害・環境問題資料の保存が挿入された。このような状況を踏まえて、わが国の大気汚染公害問題資料の保存と活用(資料研究や記録化等)に関わる恒

常的なネットワークづくりを展望した議論を進めている。

今後は保存資料を活用しつつ公害問題史の研究活動を進めていくことを念頭に、公害問題史研究の第一人者である宮本理事、小山仁示氏(関西大学教授)、宇井純氏をパネラーとしたシンポジウムを開催し、92人の参加者あった(2/25)。

また、大阪人権博物館第3次基本計画策定委員会ワーキングチームに達協研究員を派遣し、同博物館での公害問題資料展示の拡充を進めることとしている。



公害経験に関する情報発信・交流事業

今年度も全国公害患者の会連合会に協力して、アジア・太平洋NGO環境会議がインドで開催されたことに呼応して、同会議への出席のほか、

和田幸子・神戸市立外国語大学教授のコーディネートにより、現地の環境NGOや住民団体との交流を行った(交流内容はLibella11月号参照)。

また、(社)産業環境管理協会(10/3)や JICA 中国センター(10/20)が実施する途上国環境担当官吏の研修事業に協力して、視察・現地研修の受入れを行った。前者については、昨年度同様に、財団より大阪市に依頼して自治体の立場からの講義も組み込んで実施された。また、金沢大学留学生の研修受入れも行った(2/21)。

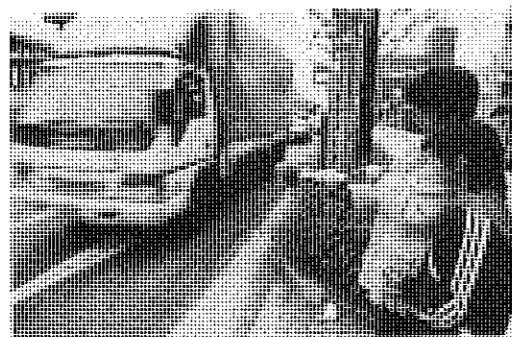
これらの取組みに際して、イオングループ環境財団助成により作成した「公害被害者からみた日本の大気汚染公害」(和・英版、和・中版)が活用された。また、国際コミュニケー

ション基金の助成を受けてホームページの拡充を進めた。

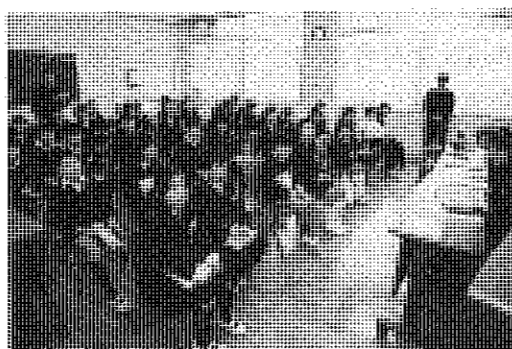


環境学習プログラム開発事業

環境事業団地球環境基金の助成により、2002年度からの学校教育における「総合的な学習の時間」の導入を踏まえて、公害被害の経験を伝承するための教材検討の研究会活動を開始した。これには、西淀川区内で公害学習に取り組んでこられた学校の教員やオルタナティブな環境学習の実践者などが委員として参画している。今年度は、前出の「道路・交通環境しらべ」のイベントをパイロットに位置付けて、パネルの作成やプログラムの設計を行い、研究会の評価・点検を受けながら、より実践的な教材とプログラムの蓄積を進めることとしている。



この間、区内の香菱小学校、姫里小学校、柏里小学校、西淀川高校の求めに応じて、西淀川の公害問題などを紹介する講師を派遣している。



また、環境と公害教育全国交流集会(8/21-23、水島)において、傘木研究主任が記念講演を行うとともに、みずしま財団とともに集会の成功に協力した。

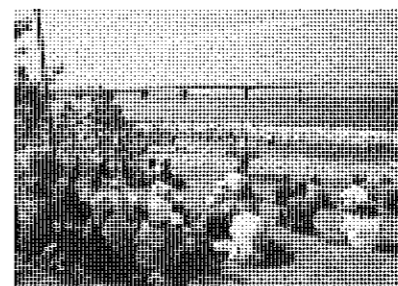
環境庁の総合環境学習ゾーン推進事業(財団は京滋阪神ゾーンの拠点施設)の一環として、平成12年度大阪府子どもエコクラブ活動推進事業検討委員会に片岡研究員を派遣した。

<広報・活動交流部門>

市民活動推進事業

西淀川地域における取組み

西淀自然文化大学は3期目となり、今年度も約20名が受講した。恒例となった「どんぐりフェスタ」(10/26)は雨天にもかかわらず成功をおさめ、ほとんどの受講生が西淀自然文化協会の一員として参画している。西淀自然文化協会は、発足から2年目となり、定例活動も定着し、同大学の運営を順調に進めた。来年度からは、持続的な講座活動を展望して大学の呼称を変更して「にしよど自然ふれあい塾」として再スタートさせることを確認している。また、矢倉海岸の市保有地を活用したピオトップづくりなどを企画しており、財団としてもその準備や市との折衝などで支援している。



4年目となった子どもエコクラブの活動は、矢倉海岸の定点観測(隔月)が定着し、こうした活動の蓄積が、身のまわりの環境マップコンクールや道路・交通環境しらべなどの子ども参加イベントの成功に結びついている。

また、日本野鳥の会大阪支部との共催で、矢倉海岸での探鳥会を4月より毎月実施している。生まれ変わった矢倉緑地を開設前から定点観測する取組みは、朝日放送「ガラスの地球を救え」で紹介された。来年度も継続し

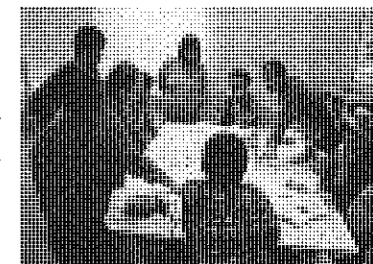
て進めていくことを確認している。

環境NGO活動の支援・交流活動

環境事業団・地球環境市民大学を今年度も受託し、大阪で環境問題総合講座(11月~12月)を、広島県福山市で環境市民活動のための環境アセスメント講座(2/23)を開催した。前者には50人の応募があり、専門家と行政・企業などの関係者を講師に交えたバラエティに富んだ講義を進めている。後者は、正式発足した(財)水島地域環境再生財団に外注し、(財)広島県環境保健協会や福山バイパスを考える会などとの連携で、80名余の参加があり、成功をおさめた。

瀬戸内海の環境NGOとの交流も進展し、来年度開催される国際エメックスセンターの第5回世界閉鎖性海域環境保全会議実行委員会の運営委員として森協理事長を、プログラム部会委員及び関連事業部会委員に傘木研修主任を派遣している。また、瀬戸内海環境保全創造計画検討委員会(環境庁委託、事務局:(社)瀬戸内海環境保全協会)に委員として傘木を派遣した。

今年度は、福井県鯖江市から「環境リーダー養成講座」(全6回)を受託した。講座は概ね好評で、来年度の継続が打診されている。



また、今年度も(財)京都大学コンソーシアムからのインターンシップとして、島田竜氏の研修を受け入れた。島田氏にはJICAや台湾からの研修生受け入れや地球環境市民大学校の実務などを担当してもらった。インターンシップの受入れに際して、今年度も(財)関西生産性本部の補助金を受けた。

水島地域や尼崎地域との連携

今年3月に岡山県の設立許可を受けた水島地域環境再生財団(みずしま財団)とは、昨年度に引き続き地球環境市民大学校について外注という形で業務連携している。また、前出の環境と公害教育研究会や地球環境市民大学校や昨年度外注した地球温暖化防止モデル事業の成果を地域に還元するためのシンポジウム(11/23)の開催に協力した。その他、各種助成金申請などに際する技術的援助を行っている。

尼崎ひと・まち・赤とんぼセンターとは、

日常的に情報交換や尼崎公害裁判の支援などで連携している。同センターが実施したデンマーク視察に際して、国際交流基金の助成申請手続き、契約業務の代行などに協力した。

川崎地域とは、日常的な情報交換や公害根絶市民会議の1周年行事(9/17)に参加するなど、交流を進めた。

また、大牟田市(福岡県)における公害患者の認定をめぐる行政訴訟と民事訴訟の解決をめぐる、患者組織と市の双方から相談を受け、来年度公害病患者の福祉事業と保健予防事業に関する調査を財団が受託し、地域に還元する方向で調整が進められている。

このほか、前述のように、公害被害者総行動(9/27-28)や全国道路公害反対住民運動連絡会(11/18-19)などの取組みに資料作成などの面で協力した。また、大阪から公害をなくす会などによる第29回公害・環境デー(1/21)に参加するとともに、前出の「道路・交通環境しらべ」の作品を展示した。

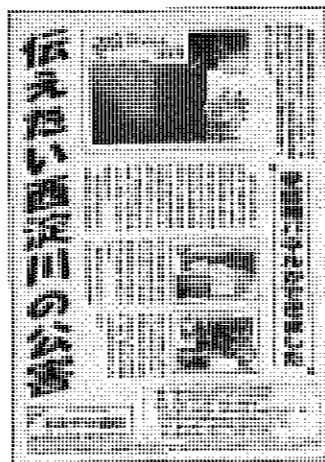
広報活動

環境事業団地球環境基金の助成により、Libellaや年報を例年通り発行し、ホームページの更新も公害経験情報発信事業と連動させながら進めている。

「あおぞら通信」の発行

今年度事業計画を踏まえて、「あおぞら通信」を西淀川地域向けの広報媒体としてリニューアルした。区内の婦人団体や老人会などを通じて約2,000部を配布している。矢倉緑地の開設や戦中・戦後展の成果を反映するなど、地

域密着型で、なるべく地域のさまざまな人びとが登場する紙面づくりに努めた。



渉外活動

環境庁長官の視察受入れ等

昨年7月に就任早々の川口順子環境庁長官が、視察先の第1号としてあおぞら財団を訪問、懇談した。国道43号や「ふくの庭」を視察された。

また、環境省発足後に「環境省と21世紀の環境行政～川口環境大臣と語るタウン・ミーティング」が開催された際、東京会場(1/17)では片岡研究員が環境再生を21世紀の中心課題にするよう訴え、大阪会場(3/24)では矢羽田研究員が道路公害対策について提案した。

財団設立許可に際してご尽力をいただいた岩垂寿喜男・元環境庁長官の通夜及び葬儀に森協理事長と傘木研究主任が参列した。

公的会合などへの出席

あおぞら財団の発案で実現したG8環境大臣会合(大津市、4月)に際しての各国政策担当者やNGOとの懇談会に、森協理事長ら財団の代表者が参加し、日本での公害地域再生活動を紹介した。

2001年11月に神戸及び淡路島で開催される第5回世界閉鎖性海域環境保全会議(主催:環境省、国際エメックスセンター等)の運営委員に森協理事長が、プログラム部会委員と関連事業部会委員に傘木研究主任が就任している。

傘木研究主任は、「サステイナブル・コミュニティ研究会」(建設省近畿地方建設局委託研究)のコーディネーター委員、西淀川区域における自動車排ガス対策研究会や瀬戸内海環境保全創造計画策定マニュアル検討委員会(いずれも環境庁委託業務)の委員をつとめた。また、傘

木研究主任は、中央環境審議会大気・交通公害合同部会意見交換会(7月)において自動車NOx法の見直しに関して、大阪府環境審議会(11月)において大阪府環境総合計画の見直しに関して、関西広域連携協議会エコモビリティ研究会において自動車排ガス対策について、それぞれ意見を述べた。

達協研究員は、西淀川公害の展示に関連して、(財)大阪人権博物館第3次基本計画策定委員会ワーキングチームの委員を、片岡研究員は大阪府の総合環境学習ゾーン推進事業学習プログラム検討会の委員をつとめた。

講師活動など

森協理事長が花園大学で講演したのをはじめ(6月)、滋賀大学や神戸市、和歌山県印南町、愛知県春日井市が主催する環境学習講座、瀬戸内海環境保全に関する衛生団体合同研修会(8月)に講師(傘木研究主任)を派遣した。また、各地の市民団体・住民団体が主催する環境や道路公害問題の学習会などに講師を派遣した。

西淀川区内では、香蓑小学校(6月)、姫里小学校(1月)、西淀川高校(2月)の環境教育カリキュラムに講師を派遣した。また、「考える会」の活動に関連して地域での学習会や住民団体・労働組合などの学習会に講師を派遣した。

学会・研究会での発表など

傘木研究主任が、日本計画行政学会広島大会(9月)において貨物自動車を対象とする環境TDMに関するアンケート調査について発表したほか、日本土木学会近畿支部・地域デザ

イン研究会(5月)、環境と公害教育研究・水島集会(8月)で講演を、全国ボランティア学習フォーラム(10月)、日本NPOセンター「NPOの調査研究能力をどう高めるか～日本と米国の比較から～」(3月)で事例報告を行った。また、矢羽田研究員が、太田特別研究員の援助により、園芸療法研究会西日本研究・実践発表会において「ふくの庭」の取組みについて発表を行った。

意見提出

前出の意見発表のほか、「瀬戸内海環境保全計画の変更に関する意見」(4月)、「『国道43

号等における道路交通環境対策の推進について』を読んで」(6月)、「『道路交通騒音対策の充実強化について(中間とりまとめ)』を読んで」(7月)、「今後の自動車排出ガス総合対策中間報告への意見」(10月)、「『新環境基本計画中間とりまとめ』を読んで」(10月)、「新環境基本計画のとりまとめに関する緊急要請」(11月)、「『今後の自動車排出ガス総合対策のあり方について(最終報告案)』への意見」(12月)を、それぞれ傘木研究主任が提出した。

(詳しくは「あおぞら財団」活動に関する資料参照)

私のおきのおき

仕事、仕事で過ごしてきた1年でしたので、それ以外の出会いは思いつかないというのが実情です。

公害問題資料の存在とそれにまつわる人々の人生を本気で後世に伝える仕事は、生半可なことではないと実感した1年でした。そのなかでいろいろな人と出会い、いろいろな立場、考え方、それらを粗末にすることなく人と人とのつながり(ネットワークという手垢のついた言い方はしたくないなあ)を創ってい

く困難さを感じた1年でした。

(達脇明子)



< 財政と組織 >

財務

環境庁による受託業務に関する会計監査が昨年に続けて行われた(9/21)。昨年に指摘された事項の改善が図られ、適正に行われているとの評価を得た。

基本財産の運用は、中期国債ファンドへの切り替えにより、若干運用益の収入が改善された。しかし、超低金利政策が続いており、運用益を拡大することは困難である。また、KSDなど国所管法人の不祥事が相次いでいることから、所管庁からの関連調査も多くなっている。当財団は、天下りや出向を受けていないため、なんら問題となることはないが、政府機関からの受託に関わる環境は厳しくなることが懸念される。

他の自主財産(賛助会費や寄附など)に関しては伸びが見られず、財政を支える力とはなっていない。これについても、財団活動の広がり示すバロメータとして重視して取り組む必要がある。

理事会

今年度は、第11回通常理事会(6/21)と第12回臨時理事会(12/4)、第13回通常理事会(3/25、於：東京)の計3回開催した。

第11回理事会は、前回評議員会が承認した1999年度事業報告及び決算報告を議決した。第12回理事会は、来年度計画している環境再生・国際ワークショップと今後進めていく課題としての市民参加型アセス事業について議論し、担当者を決めた(前者：宮本・早川両理事、後者：三村・芹沢両理事)。第13回理事会は、2001年度事業計画・予算を議決するとともに、環境再生・国際ワークショップや

地域づくり活動、担い手育成のあり方等について議論した。

評議員会

今年度は、第6回評議員会(6/19)と第7回評議員会(3/23)の計2回開催した。

第6回評議員会は、1999年度事業報告案及び決算報告案を承認した。第7回評議員会は、2001年度事業計画・予算を承認するとともに、会員拡大や役員体制の若返り、担い手育成のあり方等について議論した。

賛助会員

昨年度末現勢は個人209名・法人22・団体19であったのに対して、今年度末現勢は個人197名・法人21、団体16となった。賛助会員制度発足時(1997年4月)に比べて個人会員で80名減(3割減)となり、減少傾向が続いている。

事務局

設立準備会発足時から勤務した三宅雅美さんが中国留学のため9月に退職した。後任に矢羽田薫さんを採用し、パートとして水野順子さんを採用した。また、昨年度に引き続き、公害被害者運動資料の整理作業員として林美帆さんをアルバイトとして雇用した。

今年度も(財)大学コンソーシアム京都「NPO・SCHOOL」からのインターン生を受入れ、島田竜さんに地球環境市民大学の運営などに従事してもらった。昨年同様、受入れに際して(財)関西生産性本部の助成を受けた。

初めての慰安旅行(鞆の浦、2月4～5日)を、広島県福山市で地球環境市民大学校を開催し

た折に合わせて実施した。

特別研究員

今年度事業計画の新しい方針に基づき、太田周作さんと北元敏夫さんと特別研究員の契約を交わした。太田さんには園芸療法プログラムの設計・実施・評価を、北元さんには地域の指標生物調査と委託調査の一部分担をお

願いした。

ボランティア

今年度も「ふくの庭」と羽曳野病院での園芸療法プログラムに多数のボランティアが参加した。また、毎月のLibella発送作業に西淀川公害患者と家族の会協力している。

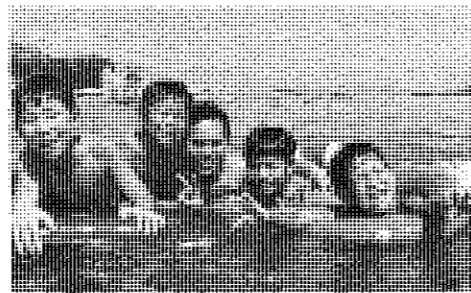
私のおきのおきのおき

我が家の押入れを整理していて26年前の写真をみつける！

私の思いでの一つに患者会結成3年目の夏、和歌山、加太海岸にバス4台で日帰りの転地療養に行った。公害患者も若く、小さい児童が多く参加した。引き潮になると岩の間にある魚や蟹を追いかけ、なかには蛸まで捕まえる子供もいた。

当時、私は40歳、一番右端で両手を挙

げてピースのポーズをしている子供が患者会事務局長辰巳致君（4歳）です。今、共に被害者運動と街づくりにすすむとは、縁は不思議なものです。（森脇君雄）



活動日誌

2000年

4月

- 1日（土）・第19回日本環境会議・20周年記念シンポジウム（参加）
- ・ふくの庭講座オリエンテーション
- 4日（火）・「西淀川地域の環境再生にむけたあおぞら財団の提案（第一次）」プレス発表
- ・西淀川公害患者と家族の会において財団事業の報告
- 5日（水）・事務局会議
- ・リベラ編集会議
- 6日（木）・主任会議
- 7日（金）・瀬戸内海環境保全・創造計画検討委員会（委員：傘木）
- ・西淀川国民大運動実行委員会（参加）
- 8日（土）・NGOとG8政策担当者との懇談会
- 10日（月）・公害問題資料保存研究会
- ・水島環境再生財団の視察受入
- 11日（火）・事務局会議
- 14日（金）・主任会議
- ・環境アセスメントのための環境診断マップ作成マニュアル検討会
- ・アルバックセミナー「英国のTDM政策」（参加）
- 15日（木）・矢倉海岸定例探鳥会
- 19日（水）・事務局会議
- ・西淀川区域に係る自動車排ガス対策研究会（委員：傘木）
- 20日（木）・主任会議
- 21日（金）・リベラ発送
- ・社会福祉・医療事業団助成金事務説明会（参加）
- ・国際コミュニケーション基金助成金授与式（参加）

5月

- 6日（土）・第1回園芸を通して人と自然を考える「ふくの庭」講座
- 8日（月）・リベラ編集会議
- 9日（火）・事務局会議
- ・西淀自然文化大学
- 10日（水）・第12回西淀川道路環境対策検討会
- ・主任会議
- 11日（木）・西淀川公害患者と家族の会転地療養（参加、～12日）
- 12日（金）・ハンセン病の歴史を学ぶ市民集会（参加）
- 13日（土）・桃山学院大学芝村ゼミ視察受入
- ・西淀川子どもエコクラブ矢倉海岸定期調査
- ・ふくの実りを楽しむ会
- ・水島地域環境再生財団設立記念講演会（参加）
- 17日（水）・事務局会議
- ・リベラ編集会議
- ・地域デザイン研究会（講師：傘木）
- 18日（木）・ソラダス一斉調査
- 19日（金）・ソラダス一斉調査・SPM簡易測定
- 20日（土）・矢倉海岸定例探鳥会

- ・東京都建設局道路管理部ヒアリング及び現地視察
- ・宮本憲一先生の古稀と「都市政策の思想と現実」の出版を祝う会（参加）
- ・アースデーイベント「ケナフで折り紙!？」
- 23日（日）・タンポポ分布調査
- 24日（月）・環境庁地球環境部長との懇談（G8環境大臣会合に向けたNGO共同行動）
- 26日（水）・事務局会議
- 27日（木）・西淀川国民大運動実行委員会（参加）
- 28日（金）・都市再生政策形成研究会第3回
- 29日（土）・大阪市立大学視察受入

- ・春日井市環境ゼミナール (講師：傘木)
- 21日 (日) ・タンポポ分布調査
- 22日 (月) ・リベラ発送
・主任会議
・内部監査
- 23日 (火) ・西淀自然文化大学
- 24日 (水) ・事務局会議 (1999年度年次総括会議)
- 25日 (木) ・矢倉海岸に関する大阪市との懇談会
- 26日 (金) ・リベラ会議
・「都市に自然をとりもどす」出版関係者懇労会
- 27日 (土) ・サステナブル・コミュニティ研究会 (委員：傘木、～28日)
- 28日 (日) ・ピースおおさか見学会
- 30日 (火) ・「低・未利用地の有効活用を考える」シンポジウム (参加)
- 31日 (水) ・主任会議
・西淀川国民大運動実行委員会 (オブザーバー)

6月

- 1日 (木) ・事務局会議
・NPOスクール来所
- 3日 (土) ・第2回園芸を通して人と自然を考える「ふくの庭」講座
- 4日 (日) ・アースデー授賞式
- 5日 (月) ・リベラ編集会議
- 7日 (水) ・事務局会議
・主任会議
- 8日 (木) ・いずみ市民生協総大会 (参加)
- 12日 (月) ・西淀川区校長会 (参加)
- 13日 (火) ・西淀自然文化大学
- 14日 (水) ・事務局会議
- 15日 (木) ・主任会議
- 17日 (土) ・矢倉海岸定例探鳥会
・香蓑小学校で講演
・大泉緑地主催園芸療法講座 (参加)

- 19日 (月) ・第9回評議員会
・コンソーシアム京都インターンシップ受け入れ団体交流会
- 20日 (火) ・滋賀大学で講演 (講師：傘木)
- 21日 (水) ・事務局会議
- 22日 (木) ・花園大学で講演 (講師：森脇)
- 23日 (金) ・リベラ発送
・主任会議
- 24日 (土) ・気候フォーラム総会 (参加)
- 25日 (日) ・第11回通常理事会
- 27日 (火) ・西淀自然文化大学
・西淀川国民大運動実行委員会 (オブザーバー)
- 28日 (水) ・事務局会議
- 29日 (木) ・主任会議
- 30日 (金) ・第3回西淀川区自動車排ガス対策検討調査研究会 (委員：傘木)

7月

- 1日 (土) ・西淀川の戦中・戦後展開連行・区内戦跡まわり
・第3回園芸を通して人と自然を考える「ふくの庭」講座
・尼崎公害患者・家族の会総会 (参加)
- 2日 (日) ・ひまわりの家開設祝う会 (参加)
- 3日 (月) ・リベラ編集会議
・環境庁文書保存アピール活動打合せ
- 5日 (水) ・主任会議
・サステナブル・コミュニティ研究会 (委員：傘木)
- 6日 (木) ・事務局会議
・西淀川国民大運動実行委員会学習会 (参加)
- 8日 (土) ・環境再生のまちづくりワークショップ
- 11日 (火) ・西淀自然文化大学
・みずしま財団環境アセス学習会 (講師：傘木)

- 12日 (水) ・事務局会議
・第13回西淀川道路環境対策検討会
- 13日 (木) ・主任会議
- 14日 (金) ・沖繩国際環境NGOフォーラム (参加、～17日)
- 15日 (土) ・矢倉海岸定例探鳥会
- 19日 (水) ・事務局会議
・環境庁長官視察受入
- 20日 (木) ・市役所労働組合10周年 (参加)
- 23日 (日) ・ポートアイランド石炭火力発電所学習会 (講師：傘木)
- 24日 (月) ・韓国司法修習生研修受け入れ (～25日)
- 25日 (火) ・西淀自然文化大学
- 26日 (水) ・事務局会議
- 27日 (木) ・第4回都市環境再生政策研究会
- 31日 (月) ・環境庁文書保存アピール活動打合せ

8月

- 2日 (水) ・主任会議
- 3日 (木) ・事務局会議
・瀬戸内海環境保全に関する衛生団体合同研修会 (講師：傘木)
・淀川花火鑑賞会
- 4日 (金) ・(財)広島県環境保健協会来所
- 5日 (土) ・第4回園芸を通して人と自然を考える「ふくの庭」講座
- 7日 (月) ・新建築技術者協会座談会 (参加)
- 8日 (火) ・西淀自然文化大学
- 9日 (水) ・事務局会議
- 10日 (木) ・第1回鯖江市環境リーダー養成講座
- 17日 (木) ・主任会議
- 18日 (金) ・西淀川まちづくり考える会 (参加)
- 19日 (土) ・矢倉海岸定例探鳥会
- 21日 (月) ・＜環境と公害＞教育研究・水島集会 (参加)
- 22日 (火) ・西淀自然文化大学
- 23日 (水) ・西淀川の戦中・戦後展 (～28日)

- 24日 (木) ・セミのぬけがら調査
・主任会議
・事務局会議
- 25日 (金) ・歓送迎会
- 28日 (月) ・西淀川の戦中・戦後を語る会
- 29日 (火) ・事務局会議
- 30日 (水) ・リベラ編集会議
- 31日 (木) ・主任会議

9月

- 1日 (金) ・アジア・太平洋環境大臣会議 in 北九州 (～3日、市民参加プログラムに参加)
・イオングループ環境財団設立10周年行事 (参加)
- 2日 (土) ・第5回園芸を通して人と自然を考える会「ふくの庭」講座
- 6日 (水) ・(財)大阪人権博物館第3次基本計画策定委員会ワーキングチーム (委員：達脇)
- 7日 (木) ・事務局会議
・第2回鯖江市環境リーダー養成講座
- 8日 (金) ・西淀川まちづくり考える会 (参加)
・サステナブル・コミュニティ研究会 (～9日、委員：傘木)
- 9日 (土) ・西淀川子どもエコクラブ矢倉海岸定期調査
- 11日 (月) ・設立記念日
- 12日 (火) ・西淀自然文化大学
・瀬戸内海沿岸域環境保全創造計画検討委員会 (委員：傘木)
- 13日 (水) ・第14回西淀川道路環境対策検討会
・環境庁文書保存アピール活動 環境庁懇談と記者発表
- 15日 (金) ・インド環境調査
・第5回アジア太平洋NGO環境会議・インド (～25日、参加)

- 16日(土) ・矢倉海岸定例探鳥会
- 17日(日) ・川崎公害病友の会 30周年(参加)
- 19日(火) ・矢倉緑地公園見学会
・第25回全国公害被害者総行動結団式(参加)
- 20日(水) ・事務局会議
- 21日(木) ・主任会議
・環境庁実地監査
・尼崎公害裁判控訴審行動(参加)
- 22日(金) ・リベラ放送
・日本計画行政学会(報告:傘木)
・(財)広島県環境保健協会へ訪問・懇談(傘木)
- 23日(土) ・佃地区まちづくり懇談会
- 26日(火) ・事務局会議
・西淀自然文化大学
- 27日(水) ・第25回全国公害被害者総行動デー(～28日、参加)
- 29日(金) ・主任会議

10月

- 1日(日) ・第3回鯖江市環境リーダー養成講座
- 2日(月) ・リベラ編集会議
- 3日(火) ・台湾研修生受け入れ
・御幣島地区まちづくり懇談会
- 4日(水) ・野里地区まちづくり懇談会
- 5日(木) ・事務局会議
・芦屋市みどりのまちづくり連続セミナー(講師:傘木)
- 6日(金) ・公害問題資料保存研究会
- 7日(土) ・第6回園芸を通して人と自然を考える「ふくの庭」講座
- 8日(日) ・新日本婦人の会西淀川支部総会(出席)
- 10日(火) ・大阪市下水道局との懇談
・西淀自然文化大学
- 11日(水) ・事務局会議

- ・西淀川公害に関する学習プログラム作成研究会
- ・沖縄環境ネットワーク来所
- 12日(木) ・主任会議
・大阪市建設局緑化課との懇談
・第4回鯖江市環境リーダー養成講座
- 13日(金) ・NPOスクールインターン中間総括
・まちづくり考える会幹事会
- 14日(土) ・『青い空の記憶』出版記念会(参加)
- 16日(月) ・関西広域連携協議会エコモビリティ研究会(報告:傘木)
- 17日(火) ・まちづくり考える会西淀川区役所との懇談会
- 18日(水) ・事務局会議
- 19日(木) ・主任会議
- 20日(金) ・JICA中国国際センター視察受け入れ
・和歌山文書館研修会(参加)
- 21日(土) ・西淀川公害患者と家族の会第29回定期総会(参加)
・矢倉海岸定例探鳥会
- 23日(月) ・リベラ放送
・サンテレビスペース2000「道路公害と長期裁判」(出演:傘木)
- 24日(火) ・西淀自然文化大学修了式
・西淀まちづくり考える会の近畿地方建設局との懇談(参加)
- 25日(水) ・事務局会議
- 26日(木) ・主任会議
・サステイナブルコミュニティー研究会(委員:傘木)
- 28日(土) ・どんぐりフェスタ(参加)
・センター赤とんぼ1周年(参加)
・全国ボランティア学習フォーラム(報告:傘木)
- 31日(火) ・リベラ編集会議
・まちづくり考える会幹事会
・柏里まちづくり懇談会

11月

- 1日(水) ・主任会議
- 2日(木) ・事務局会議
・全国歴史資料保存利用機関連絡協議会第26回全国大会(参加:達協、10/31～)
- 3日(金) ・コミュニティーガーデン・ふくの庭「秋の実りを楽しむ会」(開催)
- 4日(土) ・第7回園芸を通じて人と自然を考える「ふくの庭」講座
- 5日(日) ・第5回鯖江市環境リーダー養成講座
・15年戦争研究会(報告:達協)
- 6日(月) ・まちづくり考える会事務局会議
- 7日(火) ・西淀自然文化協会幹事会
- 8日(水) ・事務局会議
- 9日(木) ・西淀川公害患者と家族の会「転地療養事業」(参加、～10日)
- 11日(土) ・西淀川子どもエコクラブ矢倉海岸定期調査
・アース基金評議員会(参加:傘木)
- 12日(日) ・西淀川生活と健康を守る会50周年記念集会(参加:傘木)
- 13日(月) ・主任会議
・地球環境市民大学「環境NGOのための地球環境問題講座」第1回
- 15日(水) ・事務局会議
・日本公園緑地協会研修会(参加、～17日)
・第7回サステイナブル・コミュニティー研究会(委員:傘木)
- 16日(木) ・主任会議
・日蘭友好400周年記念参加事業 21世紀の生き方をさぐる一人、生活、自然—
・「ポスターセッション」(参加)
- 17日(金) ・まちづくり考える会幹事会
・第15回西淀川道路環境対策検討会

- 18日(土) ・矢倉海岸定例探鳥会
・「なちゆるら」座談会(参加:片岡)
- ・道路公害反対全国交流集会(参加、～19日)
- 19日(日) ・尼崎道路公害の早期解決をめざす「排ガスと人権」11.19集会(参加)
- 20日(月) ・地球環境市民大学「環境NGOのための地球環境問題講座」第2回
・リベラ放送
- 21日(火) ・大阪府環境審議会(意見陳述:傘木)
- 22日(水) ・事務局会議
・神戸シルバーカレッジ・生活環境コース(講師:傘木)
- 23日(木) ・大阪から公害をなくす会・資料調査(達協)
・21世紀の水島地域の環境を考えよう—報告会&シンポジウム—(パネリスト:傘木)
- 25日(土) ・西淀川の道路・交通環境しらべ(開催)
- 27日(月) ・地球環境市民大学「環境NGOのための地球環境問題講座」第3回
・名古屋南部大気汚染公害訴訟判決行動(参加)
- 29日(水) ・西淀川公害に関する学習プログラム作成研究会
- 30日(木) ・主任会議

12月

- 1日(金) ・近弁連シンポジウム(参加)
・NPOスクール第3回受入団体交流会
- 2日(土) ・第8回園芸を通じて人と自然を考える「ふくの庭」講座
・まちづくり考える会シンポジウム
・柏里小学校緑道しらべ発表を見学
- 3日(日) ・住みよい二見をつくる会学習会(講師:傘木)
- 4日(月) ・リベラ編集会議

- ・第12回臨時理事会
- ・地球環境市民大学校「環境NGOのための地球環境問題講座」第4回
- 5日(火) ・環境庁総務課との懇談(資料保存緊急要請呼びかけ人など)
- ・第2回公害問題資料保存研究会(東京)
- 6日(水) ・国立公文書館長との懇談(資料保存研究会)
- ・主任会議
- ・国際エメックス会議運営検討会(委員:傘木)
- 7日(木) ・事務局会議
- 8日(金) ・ひまわりの家運営検討会(参加)
- ・神鋼石炭火力発電問題中央連絡会学習会(講師:傘木)
- ・尼崎公害訴訟裁判和解行動
- 9日(土) ・地球環境市民大学校「環境NGOのための地球環境問題講座」第5回
- ・気候ネットワークシンポジウム(～10日、参加)
- 11日(月) ・まちづくり考える会幹事会
- 12日(火) ・西淀自然文化協会幹事会
- ・神戸シルバークレッジ・生活環境コース(講師:傘木)
- 13日(水) ・事務局会議
- ・第6回鯖江市環境リーダー養成講座
- 16日(土) ・矢倉海岸定例探鳥会
- ・大阪人権博物館第3次基本計画策定委員会ワーキングチーム(委員:達協)
- ・公害・地球環境問題懇談会10周年記念シンポジウム(参加)
- 18日(月) ・気管支喘息患児対象園芸療法プログラム評価会(羽曳野病院)
- 20日(水) ・事務局会議
- 21日(木) ・瀬戸内沿岸域環境保全創造計画検討委員会(委員:傘木)
- ・国際エメックス会議プログラム検討

- 部会(委員:傘木代理出席)
- 25日(月) ・まちづくり考える会幹事会
- 26日(火) ・川口環境庁長官との懇談(森脇、傘木)
- 27日(水) ・事務局会議
- ・リベラ発送
- ・名古屋南部公害訴訟弁護団会議(傘木)
- 28日(木) ・仕事納め

2001年

1月

- 7日(日) ・国際エメックス会議プログラム検討作業部会(委員:傘木)
- 9日(火) ・西淀自然文化協会幹事会
- 10日(水) ・事務局会議
- 11日(木) ・主任会議
- 12日(金) ・西淀川公害患者と家族の会新春初顔合わせ会
- 13日(土) ・西淀川子どもエコクラブ矢倉海岸定期調査
- 15日(月) ・総合環境学習ゾーン推進事業学習プログラム検討会(委員:片岡)
- 16日(火) ・事務局会議
- 17日(水) ・環境省大臣とのタウンミーティング(参加)
- 18日(木) ・主任会議
- ・国際エメックス会議運営委員会(委員:傘木)
- 19日(金) ・身のまわりの環境マップコンクール審査
- ・まちづくり考える会幹事会
- 20日(土) ・矢倉海岸定例探鳥会
- ・姫里小学校の環境学習「西淀川公害」出張授業
- 21日(日) ・第29回公害環境デー(大阪)
- 22日(月) ・身のまわりの環境マップコンクール作品展示会(～27日)
- 23日(火) ・第3回公害問題資料保存研究会
- ・リベラ編集会議

- 24日(水) ・事務局会議
- ・第3回西淀川公害に関するプログラム研究会
- 25日(木) ・国際エメックス会議運営委員会(委員:傘木)
- ・主任会議
- 26日(金) ・総合環境学習ゾーン推進事業学習プログラム検討会(委員:片岡)
- ・大阪市域の交通問題を考える検討会
- 30日(火) ・第16回西淀川道路環境対策検討会
- 31日(水) ・事務局会議

2月

- 1日(木) ・主任会議
- 2日(金) ・まちづくり考える会事務局会議
- 3日(土) ・地球環境市民大学校(西日本)「環境市民活動のためのアセスメント講座」(～4日)
- 5日(月) ・職場旅行
- 6日(火) ・西淀自然文化協会幹事会
- 8日(木) ・事務局会議
- ・リベラ編集会議
- 9日(金) ・西淀川高等学校2年冬期校外学習(参加:傘木、鎗山)
- ・近畿通産局シンポジウム「地域コミュニティのビジネスモデル」(参加:傘木、矢羽田)
- ・「ひまわりの家」運営検討会(参加:矢羽田)
- 10日(土) ・日本環境会議環境再生政策研究会(参加:傘木)
- 14日(水) ・事務局会議
- ・まちづくり考える会事務局会議
- 15日(木) ・主任会議
- ・まちづくり考える会幹事会
- 17日(土) ・矢倉海岸定例探鳥会
- ・大阪弁護士会公害対策・環境保全部

- 会TDMシンポジウム(参加:傘木)
- 18日(日) ・ボーイスカウトリーダー養成講座(講師:傘木ほか)
- 19日(月) ・瀬戸内海環境保全・創造計画検討委員会(委員:傘木)
- 20日(火) ・西淀自然文化協会例会(参加:上田)
- ・龍谷大学、立命館大学ヒアリング受入れ
- 21日(水) ・事務局会議
- ・リベラ発送
- ・金沢大学視察受入れ

- 22日(木) ・主任会議
- 23日(金) ・国際ワークショップ第2回相談会
- 25日(日) ・「公害の歴史に学ぶ」開催
- ・第4回園芸療法研究会西日本研究・実践発表会(報告:矢羽田)
- 26日(月) ・第4回西淀川公害に関する学習プログラム作成研究会
- 27日(火) ・大気汚染公害対策に係る被害者・住民運動資料の保存・整理手法に関する調査研究
- ・専門委員会(平成12年度第1回)
- 28日(水) ・事務局会議

3月

- 3日(土) ・国道2号線沿道の環境を守る会(広島市、講師:傘木)
- 5日(月) ・国際エメックス会議関連事業部会(委員:傘木)
- 6日(火) ・西淀川区域に係る自動車排ガス対策研究会(委員:傘木)
- 7日(水) ・主任会議
- 8日(木) ・事務局会議
- ・リベラ編集会議
- 9日(金) ・「園芸療法を活用した環境保健事業に関する調査研究」評価会議
- ・ひまわりの家運営検討会

- ・日本建築学会近畿支部環境保全部会
公開研究会 (参加)
- 10日 (土) ・岩垂寿喜男氏通夜・葬儀 (~11日、
参加)
- 12日 (月) ・まちづくり考える会事務局会議
- 13日 (火) ・環境再生国際ワークショップ第3回
相談会
・西淀自然文化協会幹事会
- 14日 (水) ・事務局会議
- 15日 (木) ・主任会議
- 16日 (金) ・(社)大阪工業団地協会との懇談会
・まちづくり考える会幹事会
- 17日 (土) ・矢倉海岸定例探鳥会
- 21日 (水) ・事務局会議
- 22日 (木) ・第17回西淀川道路環境対策検討会
・主任会議
・リベラ発送
- 23日 (金) ・第7回評議員会
- 24日 (土) ・環境省大臣とのタウンミーティング (参
加)
- 25日 (日) ・第13回理事会
- 26日 (月) ・喘息患児対象園芸療法プログラム評
価会
- 27日 (火) ・西淀文化協会エコツアー (参加)
- 28日 (水) ・事務局会議
・「都市のオープンスペースを活用し
た大気生活環境に関する事例調査」
第1回検討委員会
- 29日 (木) ・日本NPOセンター「NPO調査研究能
力をどう高めるか」(名古屋、報告:
傘木)
・京阪神都市フォーラム第36回「生野
区南部見学会」(参加)
- 30日 (金) ・大阪市社会教育主事会市民交流事業
番外編「市民の社会参加の実現にむ
けて」(参加)
- 31日 (土) ・尼崎公害裁判勝利解決式 (参加)

私の とっておきの出会い

なんで、こんなところに並んでんの?って、
感じですが、ほんとは後ろに見事なハルラ
山がそびえているのです。みな喜びに満
ちた顔から少しは想像できるでしょうか?

この面々は、神戸学生青年センターが主
催した韓国スタディツアーの参加者です
(2000年5月)。このときは「4.3事件」を
勉強しに、済州島に行きました。世代を越
えての不思議な連帯感(?)があったような、
なかったような。

おかげで、帰国後もパーベキュー、山登り、
カニ旅行、温泉旅行と、おじさんパワーに
圧倒されながらも、楽しませてもらって
います。人生の先輩達に感謝、感謝。(ちな
みに私は左から3番目) (鎗山 善理子)



2

マップづくり

身のまわりの環境を五感をつか
ってしらべて地図にする。発見あ
り、驚きあり、見えなかったもの
が見えたりします。子どもたちが、親
子が環境マップづくりに取り組み
ました。

第2回

身のまわりの環境マップコンクール

作品とコメントの紹介

大阪市内の小学生を対象に「身のまわりの環境マップ」を募集し、2001年1月22日から27日まで、あおぞら財団の「西淀川地域資料室」にて展示をしました。作品は西淀川区から19作品、阿倍野区から1作品の合計20作品が集まりました。

展示の開催にあたっては、柏里小学校（西淀川区）の藤本校長先生、および西淀川高等学校の地理の先生方に、作品の一つ一つに評価やアドバイスなどのコメントを書いていただきました。

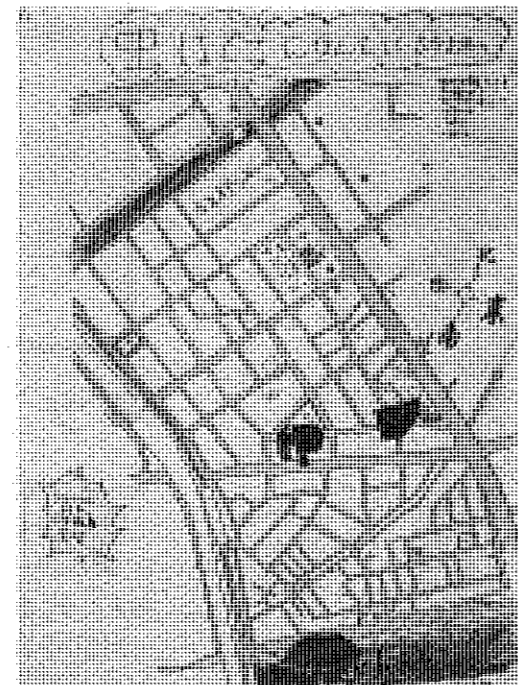
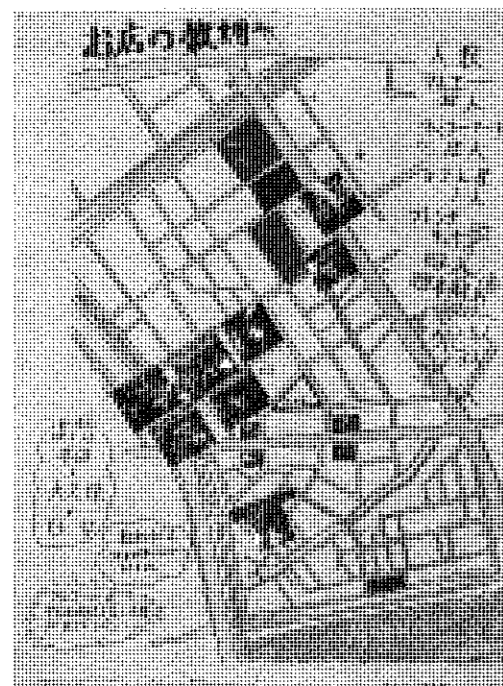
1 お店の数しらべ(姫里小学校4年生)

お店の数調べでは、調べたい理由も書かれており、目標をもって調べているところが大変よいと思います。店の写真もはってあるのでどのような店があるのかよくわかります。人数は、はたらいている人の数かな？

作文とのつながりがよく出ている。調べる時に何を調べたいかをはっきりさせた点がよかった。

ひめじま駅のすぐ北にお店が多いことがわかります。

お店がある場所について、なぜ、そこに多いのかなど調べてみては？



2 虫はどこにすんでいるか

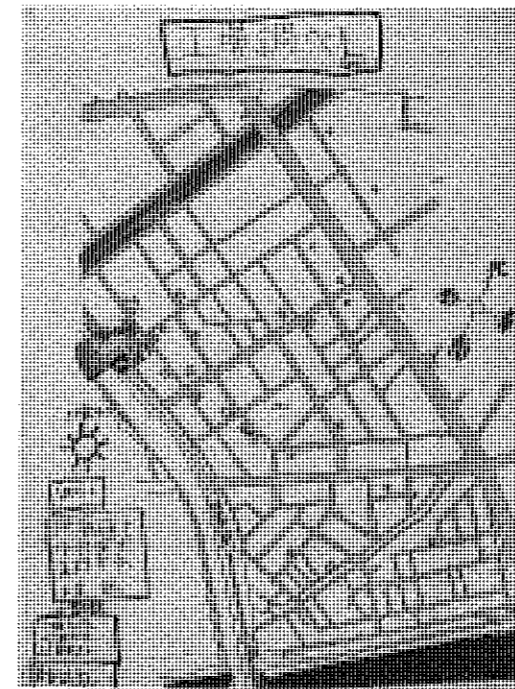
(姫里小学校4年生)

さすが虫好きな人たちが調べているので、たくさん種類を見つけることができましたね。虫の絵が少し小さいので見つけにくかったよ。マジックなのでふちどりをするとわかりやすいです。

調べる場所を考えて調べるものを決めたのがよかった。

10月でもりよくいんどうろに、セミがいたんだね。

シールが効果的。虫の多い、少ないと場所との関係をしらべればよかったかも。



3 工場しらべ(姫里小学校4年生)

工場の数は丁目ごとに調べており、大体同じ位の数であることがわかりますが、あちらこちらにちらばっているので工場名が工場マークの下にでも書かれているとどのような工場が校区にあるかよくわかるのですが…。

日ごろ感じていることを調べる目的にしたのはよかった。実際の地図を見せて、自分たちが調べた結果と合わせてみればおもしろい。

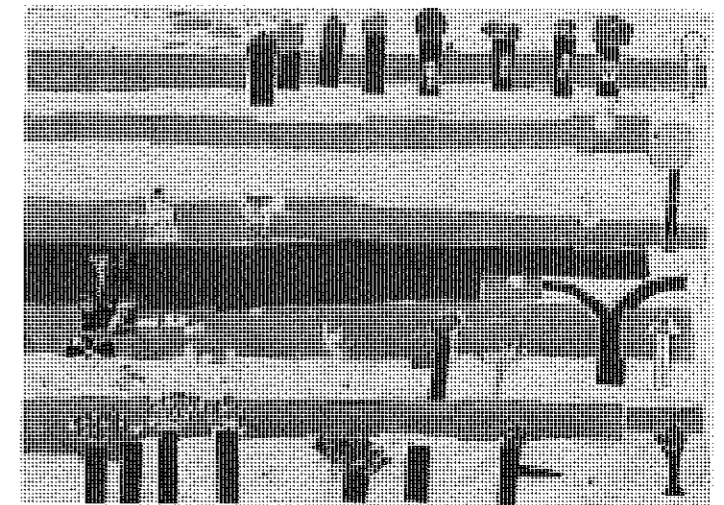
工場の大きさや種類を区別してみては？工場と環境との関係や、立地について追求してみたらもっとよかったかもしれません。

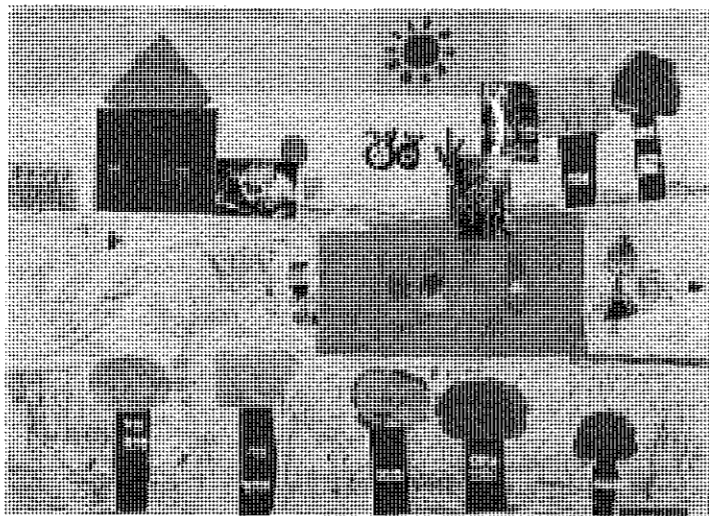
4 さくらんぼのみち

(秋の緑陰道路しらべ:柏里小学校2年生)

りよくいんどうろの自転車どうとほどうがわかれており、自転車が通っているのが自転車道であることがよくわかります。どこで何を調べているのか書いているとよくわかります。

切り絵がうまく組み合わさって、とても楽しそう。きれいで見ているとたのしくなります。木の種類もよくかけています。色をもっとぬっては？





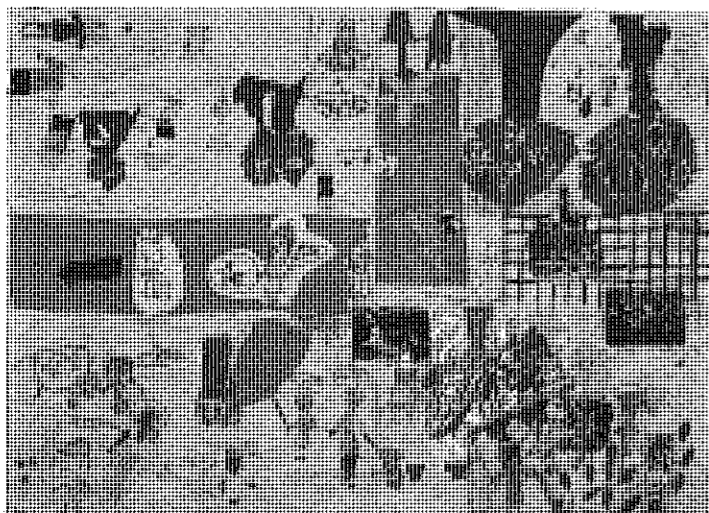
5 わたしたちのお花ばたけ

(秋の緑陰道路しらべ: 柏里小学校2年生)

りょくいん道路を通っている人やりょくいん道路で何をしているのか、その時のようすがかかれていますのでよくわかります。とてもよく観察しています。

人のかおがたくさん書いてあるのいいね。

葉をはるなど工夫をしています。みなさん、たのしそうですね。



6 たからのどうろ

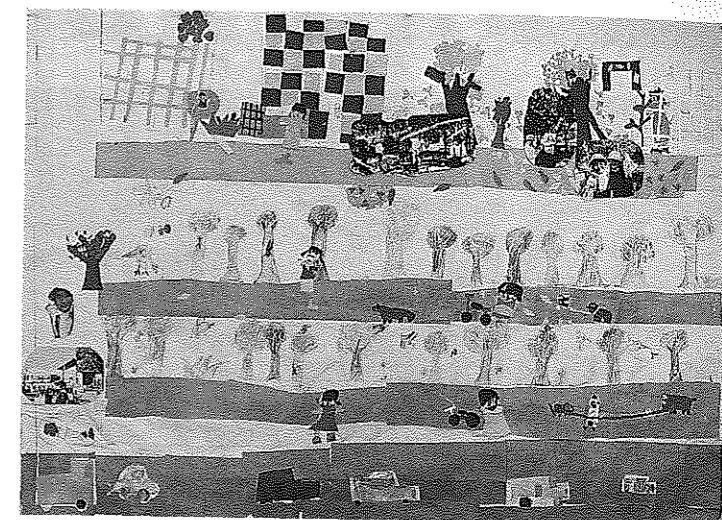
(秋の緑陰道路しらべ: 柏里小学校2年生)

りょくいん道路の植えてある木の名前をよく調べましたね。葉のようすも書かれていますので熱心に観察したことがよくわかります。

みんなで協力して作ったのがよくわかる作品です。

しゃしんが3まいともよくとれています。

木の種類をしっかりと調べています。絵もよい。



7 タカラのにな

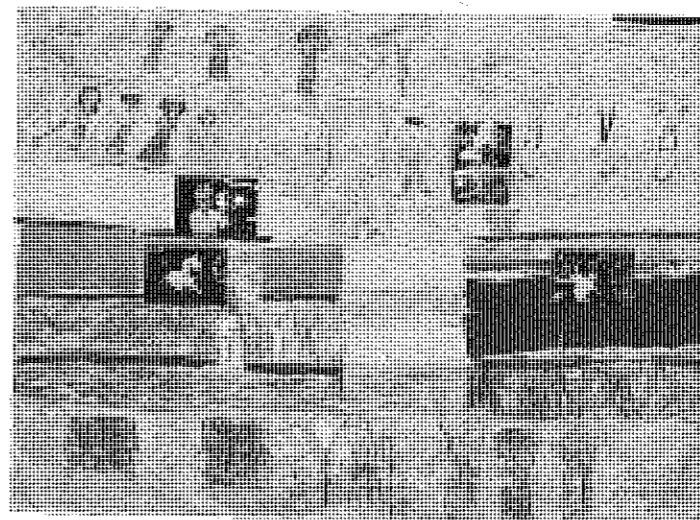
(秋の緑陰道路しらべ: 柏里小学校2年生)

木や虫の観察のようすが写真があるのでよくわかります。たくさんの人が通っているのでインタビューをしてもよかったです。

こまかいところまで良くみて調べています。

写真、切り絵、絵が効果的です!!

きいろいぼうしをかぶった男の子のひょうじょうがいいね。



8 わたしたちのたからもの

(秋の緑陰道路しらべ: 柏里小学校2年生)

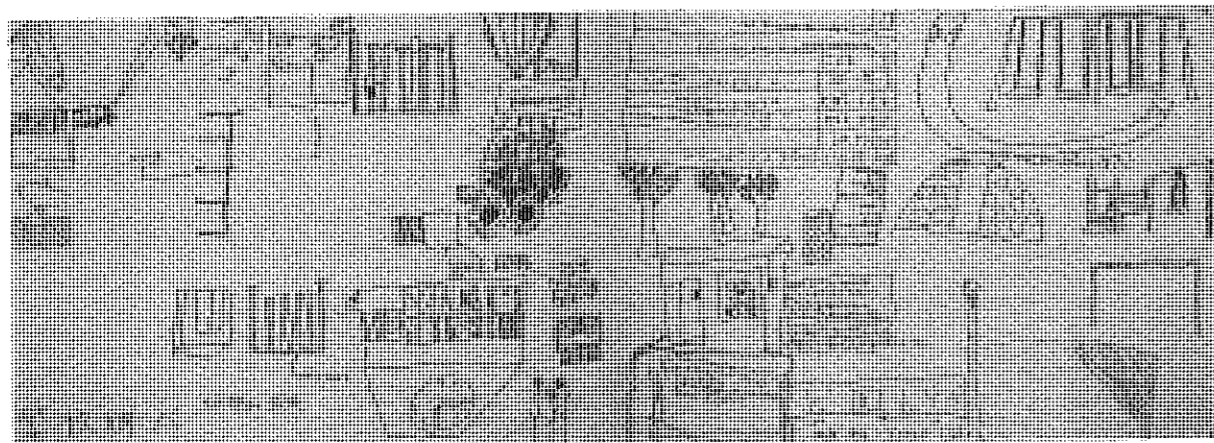
たくさんの木を一本一本ていねいに書いてあるので、すぐりょくいん道路だとわかります。りょくいん道路だけでなく、この周りにも目を向け、幅広い視野で観察しているので驚いています。すばらしいマップができています。

非常に楽しく調べてみたのがよくわかる作品で、こまかく書かれてとてもよくわかります。

木のいろが1本1本ちがう色にていねいにぬり分けられているのいいです。はり絵がよい!!

「秋の緑陰道路しらべ」 柏里小学校2年生

柏里小学校2年2組では、1年間かけて大野川緑陰道路(西淀川区)をしらべました。6つのグループがそれぞれ場所を決めて、季節ごとに観察をしました。マップコンクールにはそのうち、秋の緑陰道路についてしらべ、地図にしたものを出品してくれました。

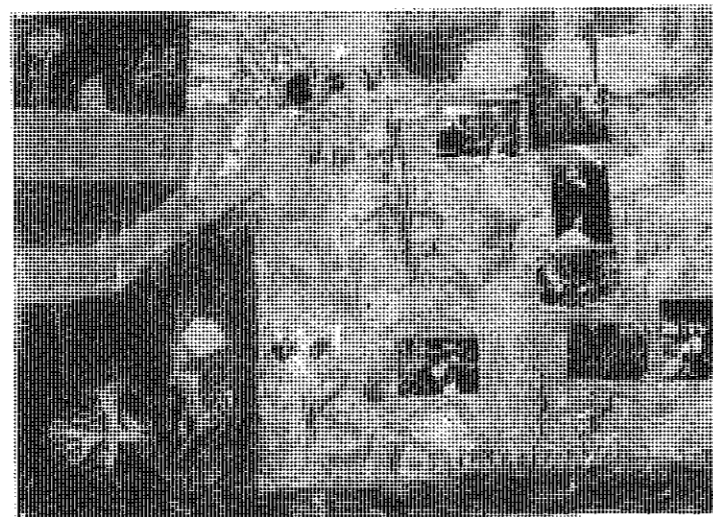


9 学校しらべ公園しらべ(佃南学童)

公園調べや学校調べをし、遊具やまわりのようすがとても良くかけています。ふだんは何となく接しているトイレや、ごみおき場などに目を向け、そのようすがよく書かれています。インタビューをして、その週の様子をまとめたのもよかったです。色をつけるともっとわかりやすいですね。

昨年にくらべて倍の大きさに、時間もかけてよく見られています。自分たちの要求もたくさん書いてあり、ひとつでも実現できたらいいと思います。

絵が写実的でよい。



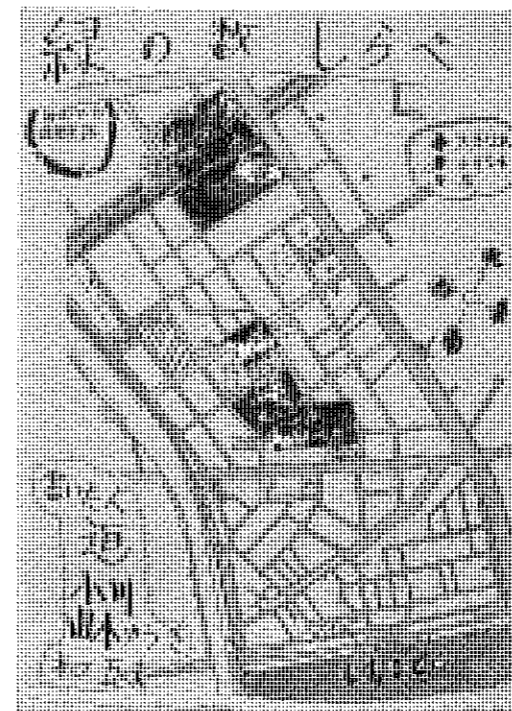
10 ヨモギののほら

(秋の緑陰道路しらべ:柏里小学校2年生)

どこにどのようなものがあるのか何を調べたのか、調べた物やその時の様子がよくわかります。少し説明を入れるとどのような物だとか、どんな虫などがいたかよくわかると思います。

秋のふんいきが非常に良く出ています。

絵全体から秋のふんいきが伝わってくるね。



11 緑の数しらべ(姫里小学校4年生)

校区には大小さまざまな木があります。生活になくてはならない自然の一つですが、環境にも目をむけたところはすばらしいと思います。校区に美しい緑木や草花が咲くともっと調べたくなりますよ

予想をしたことと現実のこととのちがいをもっと書いてほしい。大きな木と小さな木にわけたのは良かったです。

大きな木が少ないのがざんねんですね。

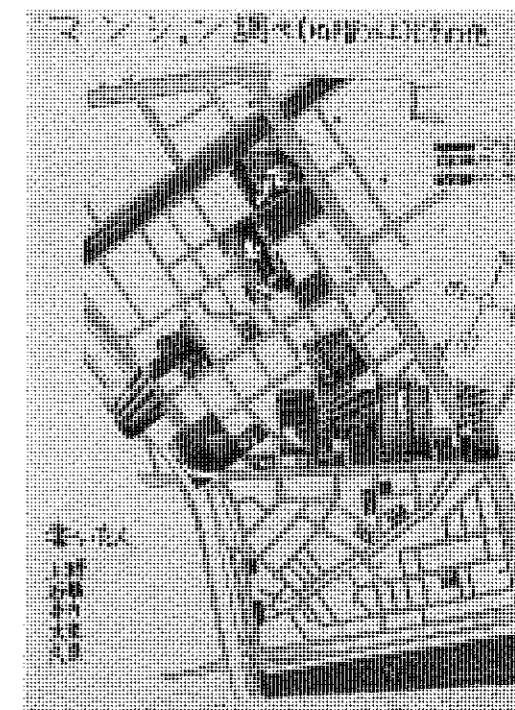
12 マンションしらべ(姫里小学校4年生)

このマップを見ていると、とてもマンションの多い校区だとすぐわかります。でも、丁目によってはまだ木造りの家も多く、これからはどうなっていくのでしょうか。特に10階以上のマンションはどんな場所に多いでしょう。少しコメントを入れるといいですね。

自分たちの住んでいる場所がどんどん変わっていったことが伝わってくるような地図です。おとなの人にすこし前とのちがいを聞いてみたら、もっとおもしろいと思います。

みなさんはマンションに住みたいですか。住みたくないですか。

写真も多く使い、視覚的でわかりやすい。

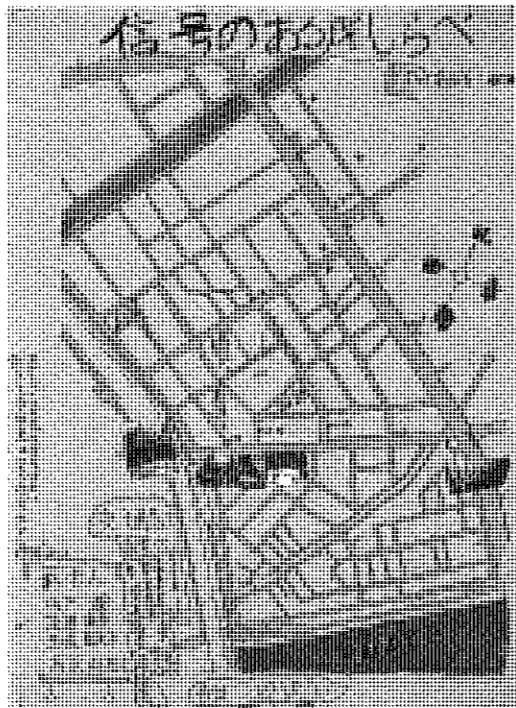
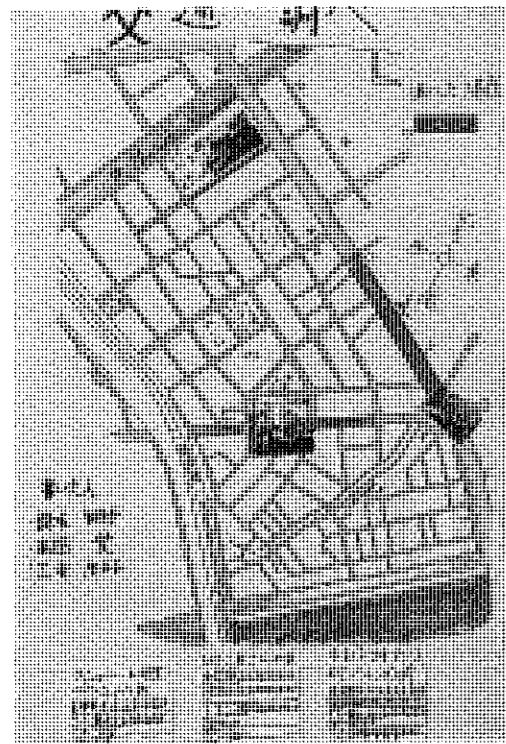


13 交通しらべ(姫里小学校4年生)

道路によってはとても多くの車が通るところ、また案外少ないなと感じるところもあります。特に調べた茶色の部分でも数時間の間に数百台の車が行き来しています。大きなメイン道路はさすが多いことがわかります。とてもわかりやすいマップです。

交通量を調べるのはたいへんだったと思います。あまり細い道にたくさんの自動車は困りますネ。

3ヵ所の車の台数を紙にまとめて、見やすくした点はよい。各種別ごとのグラフがあった方が、他の場所と比べやすい。何月何日の何時～何時の調査なのか、わかるようにしておこう！



14 信号のあるところしらべ

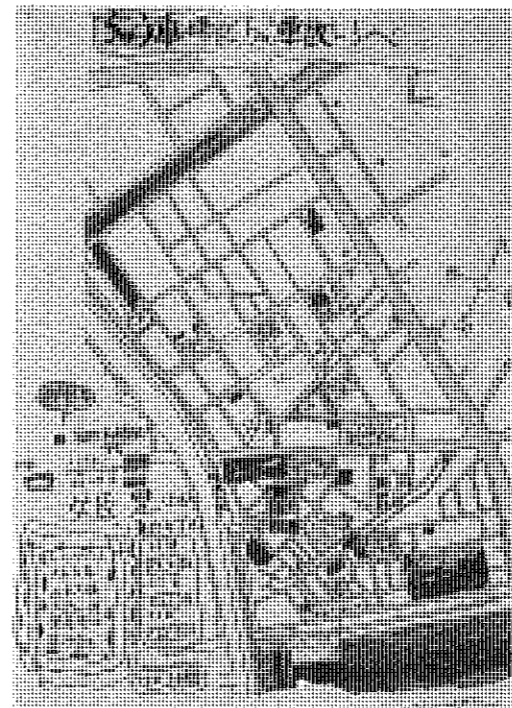
(姫里小学校4年生)

信号の数が多いほどどうなるでしょう。安全面ではよいが車のじゅうたいが多くなります。信号だけでなく車の量を調べたり、バイクの数を調べたのはよかったです。

交通量だけでなく、信号の数まで調べるのはたいへんだったと思います。「ここにも信号があったらいいな」という場所も書いてくれたら良かったです。

信号を車用と歩く人用に分けてしらべたの
がいいね。

どの地点でどのようにして交通量を調べたのか書かれていませんね。信号についてはよくわかります。どこに新たに信号をつけたら
よいか、提案できればもっとよくなります!!



15 ちゅうしゃ場とちゅうしゃ数しらべ

(姫里小学校4年生)

駐車場に色付けがしてあるので、ひと目でわかります。また駐車場に何台の車が駐車できるのかよくわかります。料金の支払い機を写真で示しているのが人の力だけではないことにも注目したところがよかったです。

駐車場の数はどんどん増えているのでしょうか。予想した時はどれくらいあると思っていたのかも知りたいですね。

立体駐車場は車の数が数えにくかったと思います。

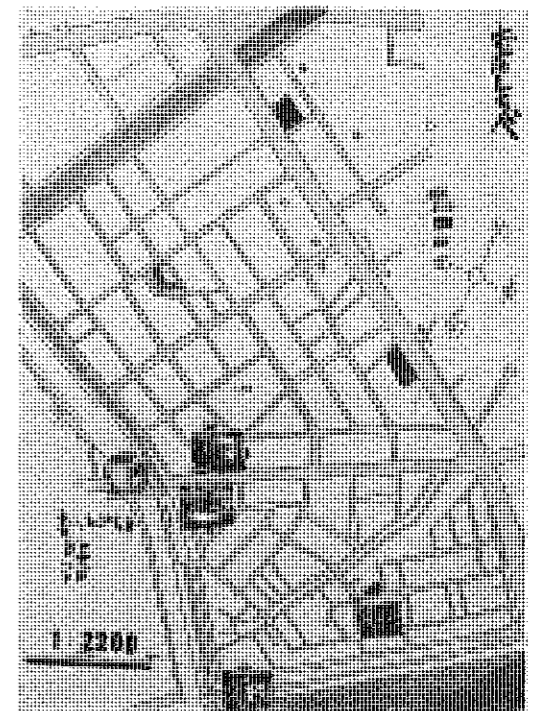
駐車場を車をとめられる台数から規模を区別し、色で図示した点がよい!! 1丁目～3丁目の住んでいる人の数を調べて比較してほしい。なぜ姫島駅の東、東南地域には10台以下の駐車場が多いのかな? ところで1丁目～3丁目は地図のどこですか?

16 お店しらべ(姫里小学校4年生)

お店調べでは写真で示しているのわかりますが、店が少ないように思いますので、コメントとして、どんな店があるといい、どの辺にあるとよいかも書いているといいですね。

地図に1:2200という縮尺がはいっているの
がいいね。

説明文がないので、何がわかったかがわからないのが、ざんねん!! 写真はよくわかります。

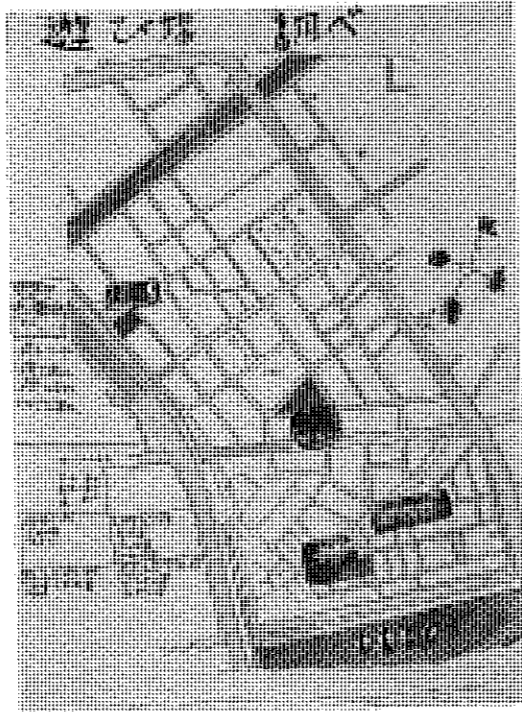


17 遊び場調べ(姫里小学校4年生)

遊び場調べでは、どこの公園が一番集まりやすい場所にあるのか、人数などで示しているのかわかりやすいです。どこの公園で遊ぶのが一番安全で遊びやすいか、目的をもって調べているのがよかったです。

調べたのが遊び場でみんながよく遊んでいるところだったのがよくわかります。昼に人の多い所と少ない所をわけたのはなかなかいい視点です。

うまくまとめていると思います。さらなる課題として、たとえば、①なぜ三角公園は人気があるのか？ ②公園以外ではどこで遊んでいるのか？ などを追求すれば、もっといいと思う。ところで、何月何日の何時にしらべたのかな？



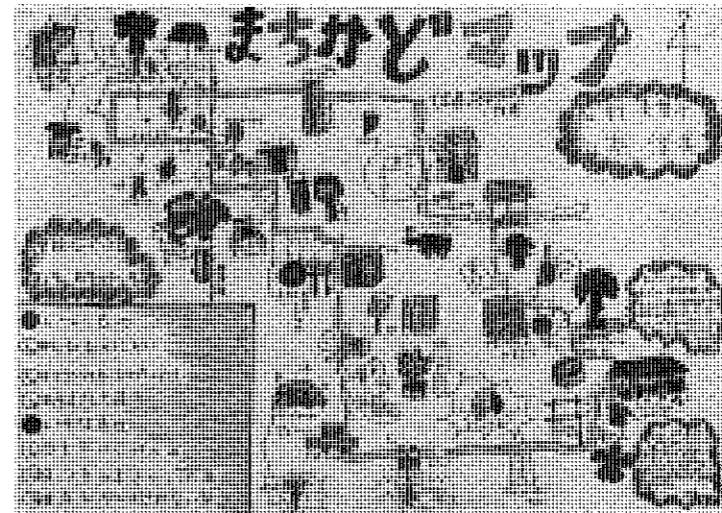
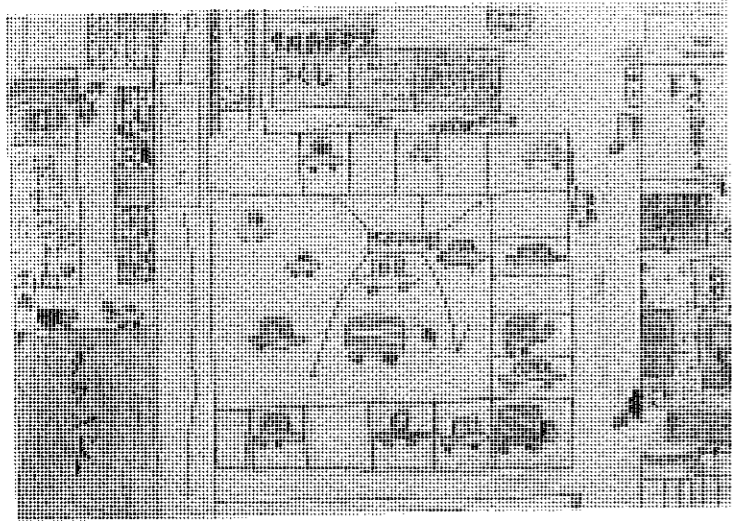
18 イルカクラブ(いるか学童)

どこの駐車場にどんな車が駐車されているのかよくわかります。とてもいいねいで、まわりのようすもよくわかります。

これを作ることでの新しい発見が多かったと思います。自分たちの街のようすがとてもわかりやすく書かれています。

絵だけじゃなくて字も1つ1つ色を変えていて、楽しく見ることができました。

車が多いけど自然も多かったことを発見したのがよくわかりました。



19 まちかどマップ

(阿倍野区 小学5年生)

まちかどマップは発想がとてもよいと思います。一つ一つの建物やまちのようすをよく見て表現されているので見ていてとても楽しいマップです。一つの町でもいろいろなものがあるんですね。

他の町との比較ができてとても良かったと思います。調べてもらった場所が大阪でもまだ緑の多いむかしのものがたくさん残っている所でもあり、西淀川とはまたちがった町を見ることができて、よかったです。

夏の暑い日にごくろうさまでした。せみの絵がよく書けています。

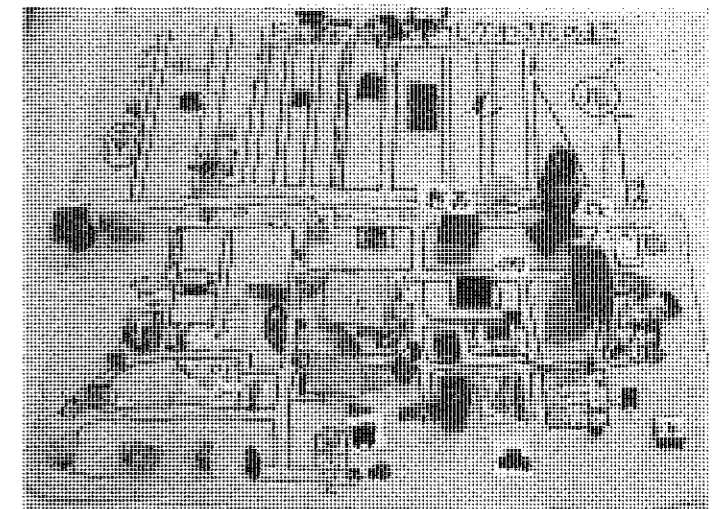
絵がすごく効果的で、いいもの、いやなものを色で区別するのもグッド!! そだいゴミの山はなぜそこにあるのですか？ ずっとおいてあるのですか？ なぜ「南方にまどのない家」は南にまどがないのか？ といった疑問について、さらに追求すれば、もっとよかったです。

20 かわきたのまち(川北小学校2年生)

立体的に表現されているのでとてもよくわかります。空からみたマップも楽しいですね。建物の様子や車、人、町のようすがよく表現されています。

立体的な地図なのでよく街のようすがわかって良いと思います。自分たちの家のまわりに何がどのくらいあるかがよくわかります。とって時間がかかって苦労したのがよくわかる“力作”です。

とてもりっぱに作られていますね。ところどころに人の顔が書けているのがとくにいいですね。



西淀川の道路・交通環境しらべ

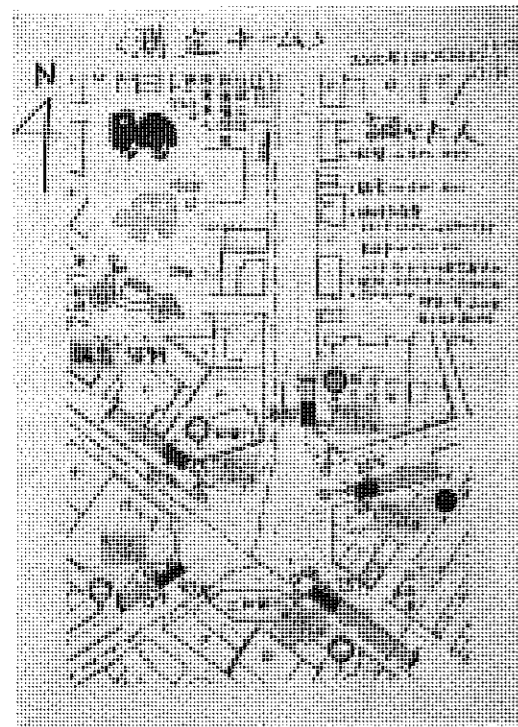
2000年11月25日（土）

午前9時30分～午後3時

参加人数：31人（子ども 13人、大人 18人）

主 催：あおぞら財団

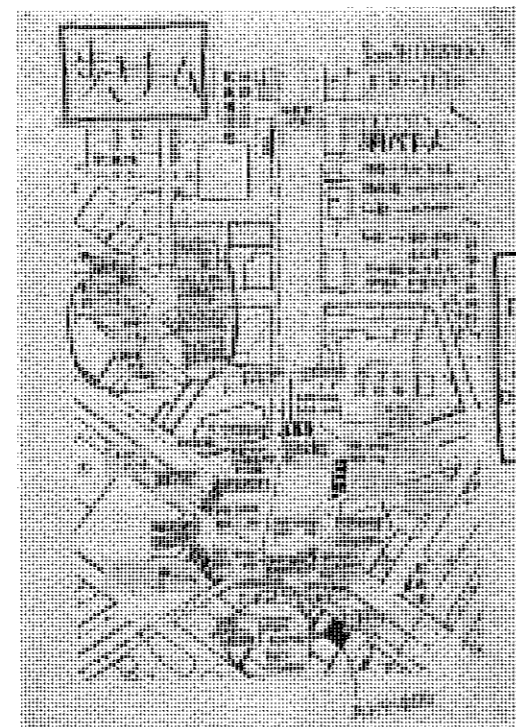
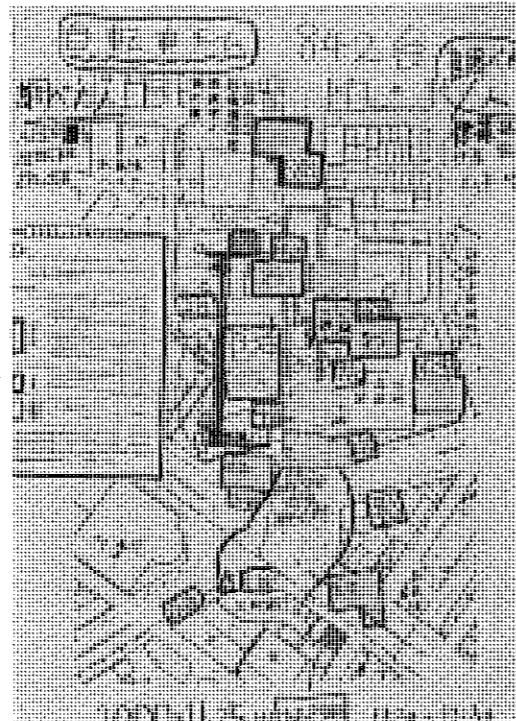
協 力：新日本婦人の会西淀川支部



私たちは小学生の子どもたちと一緒に歌島橋交差点の環境調査をおこないました。

3つの班に分かれて、何をどのように調べるかを相談し、約1時間かけて交差点を調べました。次に、わかったことを地図にしました。地図は約1時間で仕上げたものです。そして、各班が発表をおこない、みんなで交差点のこと、西淀川の街のことを考えました。

調査や地図づくり、発表はすべて子どもたちが中心になっておこないました。これからも、地域のこと、環境のことを、子どもから大人まで、いろんな世代で考えていきたいですね。



3

財政報告

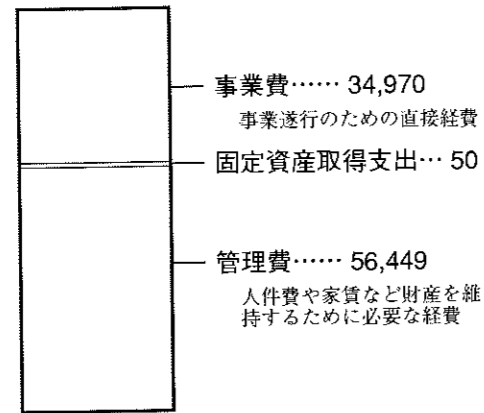
2000年度はさまざまな事情が重なって、大きな赤字になりました。自立への道は険しい。

2000年度の財政状況 (2000年4月1日～2001年3月31日)

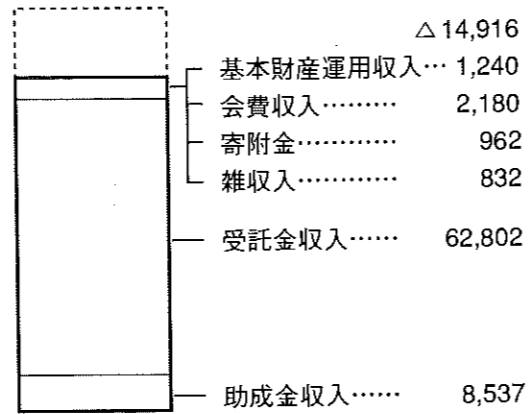
●収入・支出の状況

(単位：千円)

支出 合計 91,469



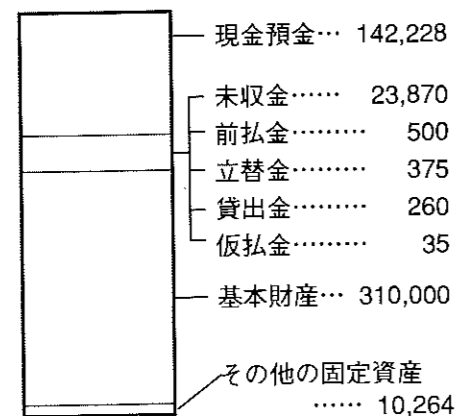
収入 合計 76,553



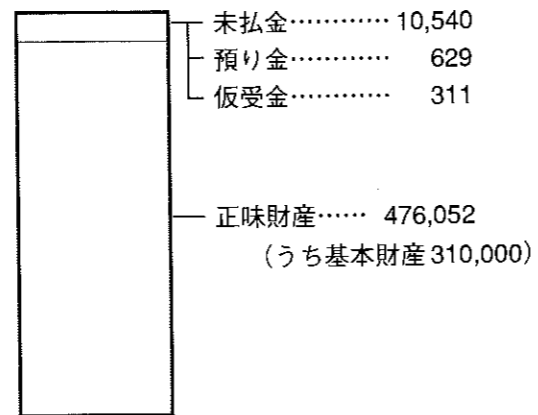
●貸借対照表

(単位：千円)

資産 合計 487,532



負債・正味財産 合計 487,532

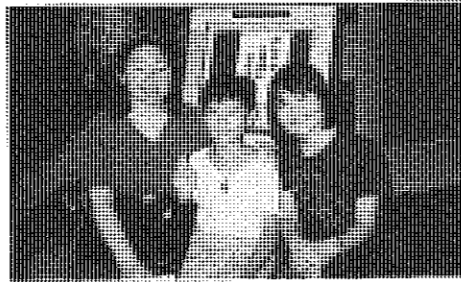


私のとっておきの出会い

私は最近、ボランティアで、日本語を勉強したい外国人のお手伝いを始めた。私の担当の張さんは、今年2月、留学生のご主人のいる大阪へ、10才の息子とともに上海からやって来た。上海で小学校の先生をやっていた彼女は、今、生活を支えるため町工場に働いている。毎日残業で朝8:30から夜8:30まで(土曜日も)。時間のない彼女は、45分の昼休みの内の30分、毎日

日本語の勉強を続けている。向学心があって、前向きで、明るい彼女に、私は会うたびに元気をもらって帰ってくる。

(大野みさ子)



元気をくれる張さん

寄付・寄贈者

尼崎公害患者・家族の会

天野憲一郎

飯島伸子

井奥圭介

池上甲一

市口正太郎

伊藤宅次

伊藤章夫

岩壺祐里

宇井純

上木光明

植田和弘

上田幹枝

浦邊真郎

エコ・コミュニケーションセンター

遠藤宏一

逢坂隆子

大阪ガス

大谷渡

太田義武

大矢京子

岡林一夫

岡村こず恵

岡本敦子

奥谷充代

小田康徳

小野塚春吉

小野寺徹

ガーデンショップ華苑

柿元玉子

傘木隆介

柏原純夫

片岡直樹

川崎公害病患者と家族の会

川崎美栄子

神吉紀世子

環境計画センター

環境庁公害健康被害補償制度研究会

吉島隆子

北元敏夫

木村邦男

木村弥三郎

九州・琉球湿地ネットワーク

行政院環境保護署

清田良次

霜上民生

熊野実夫

建設政策研究所関西支所

(株)公害健康被害保障予防協会

シンポジウム「公害の歴史に学ぶ」参加者の方々

公害・地球環境問題懇談会

香西博之

交通エコロジー・モビリティ財団

国際婦人年大阪の会

小島なつみ

小山仁示

是枝洋

坂本美き子

佐藤裕道

佐野郁夫

(株)産業環境管理協会

柴田昌美

芝村篤樹

女性とまちづくり研究会

新建築家技術者集団

震災・まちのアーカイブ

進士五十八

鈴木輝隆

須田滋

全国公害患者の会連合会

戦中戦後展来場者のみなさん

千北診療所

高橋隆雄

高橋理喜男

卓吉子

田中幸一

田中千

田中裕一

田宮正彦

樽野三千代

津下佳世

辻川敦

津留崎直美

寺田達志

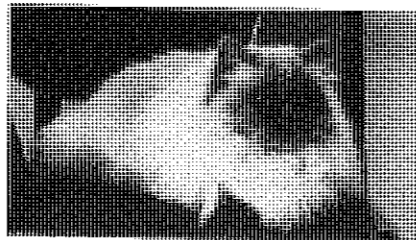
電力労働運動近畿センター
土肥耕一
徳本文三郎
富安秀雄
豊島協一郎
豊能登山キャンプクラブ
永井靖二
永野千代子
長井聖治
永井靖
中路實
中路実
中村勲
中山
新村保子
西尾哲茂
西林利裕
西淀川公害訴訟原告団・弁護団
新田保次
野村医院
野村和夫
野村瞭
長谷川慧重
早川光俊
林つや子
林曠子
原田和憲
原田智代
ピークラフト
樋ヶ守男

廣瀬省
弘本由香里
深井文昭
福富和夫
藤岡貞彦
(社)部落開放・人権研究所
フラワーハウスつるみ
松井克行
松吉
丸石園芸
水原渉
水俣病被害者弁護団全国連絡会議
三宅直美
三宅宏司
都島医療生活協同組合
宮本憲一
村杉幸子
村田正夫
村松昭夫
森下良一
山内直人
山口順子
(株)山崎シャーリング
山崎圭一
山西良平
吉田巖
立命館大学国際平和ミュージアム
龍谷大学白石グループ
和田幸子
渡辺ふさ子

私の とっておきの出会い

チャーはん。わが家の猫の名前だ。彼女がわが家へ来たのは7年前、まだ大阪市内のアパート暮らしの時だった。何気なく覗いたペットショップの片隅のゲージの中で、訴えるようなまなざしでこちらを見つめていたのを、連れ帰ってきた。すでにどこかで飼われていたらしく「チャー」という名前がついていた。元の名前に嬢(いと)はん、番頭はんの「はん」をつけたのだが、アパ

ートの部屋から時々脱走したときはちょっと困った。大きな声で探すには勇気のいる名前だったからだ。以来、時々「チャーハン(焼飯)」を探す変なおっさんが、出没したとか? (上田敏幸)



4

インターンレポート

わかもの目には、財団はどう映ったのでしょうか。

「伝える」

島田 竜
同志社大学文学部 3回生

1. はじめに

私のインターン先である「あおぞら財団」は、大阪西淀川地区の大気汚染をめぐる裁判「西淀川公害訴訟」における被告企業との和解金の一部を基に設立されたNPOである。「あおぞら財団」というのは愛称で、正式名称を「公害地域再生センター」という。その名が示す通り、西淀川地域での公害経験を教訓に、公害で疲弊した地域の再生を図り、さらには、その経験や情報を日本全国・世界各地に伝え、その地域作りに役立てるために活動している。

この「伝える」という作業が、草の根NPOであるあおぞら財団の活動のすべてであると考えている。すなわち、それによって、地域住民の参加を促し、企業・行政・住民という各主体に働きかけ、社会の公害問題に対する認識・取り組みを助長する。しもし、ここで忘れてはならないのは、「伝える」ものがいれば、「受ける」ものもいるということである。

このレポートでは、今回、私があおぞら財団でインターンをする上で大きなテーマとなった、この「伝える」ということについて論じていこうと思う。

2. インターンとして

～伝わっていなかった自分自身～

私のあおぞら財団でのインターンは、「公害」というものに対する純粋な興味から始まったのではない。「何かしたい」「とにかく経験が積みたい」そんな思いだけを持って始まった。この時点で、私には「公害」とは何か、そのNPOで働くとはどういうことなのか伝わっていなかったと言える。そしてこのことは、あおぞら財団でインターンをするにあたり、知識不足・経験不足という点で、私にとって非常に不利であった。

しかし、だからこそ私が持っていたものがある。

それは「受け手」の視点である。とくに、公害に関して深い関心や興味を持たない、または持っていない具体的な取り組みをしない市民の視点である。私は、良くも悪くもこの視点を通してあおぞら財団の活動に関わったため、市民とNPOという両者の視点から公害への取り組みを見ることができた。

3. 終わらない公害

～私に伝え、人々に伝えるもの～

私は、先に「公害に関心や興味を持たない市民の視点」を持ってあおぞら財団のインターンを始めたことと述べたが、それでは、関心がないまま関わり続けていたかと言うとそうではない。確かに、インターン初目までは公害問題に積極的に関わろうという姿勢はなかった。これは、多くの市民同様、「自分には直接関係ない」という意識があったからだ。自分のこととして捉えられない、客観的にしか捉えられないから、それに対する積極的なアクションもおこそうとしない。そしてそれは、現状を認識していないという実態から生じたものである。

では、私自身は何によって変わったか。それは、患者さんの姿である。私のインターン初日の活動は、財団のことを知るため、ビデオを見たり資料を読むことだった。それだけの作業だったが、私の公害問題に対する認識はがらりと変わった。そこで目にしたものは、患者さんの苦しむ姿だった。ぜんそくの発作で、苦しむ患者さんがいる。その家族がいる。その苦しみを知り、同時にそれは自分にも起こり得るものだと知り、何とかしなくてはと思った。私に、公害問題の現実が伝わった瞬間であった。

この瞬間から、私はあおぞら財団を通して、公害の実態をもっとよく知り、解決に向かわせたいと思うようになった。このように、患者さんの実態や経

験を「伝える」ことは、人々の「意識を変える」ことになる。当事者の声は最もインパクトが強く、最もわかりやすい。

多くの市民が、公害は「過去のもの」と捉えている。しかし実際は、今日でも患者さんという存在があり、企業や行政は過去の公害の責任を負おうとしないばかりか、新たに公害環境を生み出し、根本的な問題の解決を遅らせている。このような現実がある限り、公害問題は決して終わってはいないのだ。

この、「公害は現在も進行している」という認識を人々に訴えることが最も重要である。さらに、それに対する関わり方の指針を示すことで、より多くの人の参加を促すことができるのではないか。その指針とは、会員になることや寄付であるかもしれないし、実際に活動に参加することかもしれない。人々—特に、関心があっても取り組み方のわからない層や、今は関心がなくとも今後関心を持つ可能性を秘めた若い層—の問題意識を呼び起こし、その意識に対して具体的な活動の場を提供することで、公害問題への取り組みも進むだろう。

4. 未来へ伝える

あおぞら財団でインターンをする中で、私はある一つの矛盾に気が付いた。あおぞら財団は、公害という過ちを二度と起こさないことを願って設立され、そのために過去の公害経験を未来へ伝える活動を行っている。しかし、未来への働きかけを行っているにも関わらず、その担い手である若者の参加がほとんど無いのである。若者に対して、公害経験を伝えていかないと、いずれその記憶は忘れ去られてしまう。やはりここでも、若者の問題意識に訴え、具体的な取り組みの場—例えば公害・環境問題についての講座など—を提供することが必要である。

これから社会に出て行く彼らにこそ、今後の環境や公害問題のあり方を考える場を提供し、それが進路を決める上での一つの要素となれば、社会に対しての働きかけにもなる。学生が変われば、社会も変わる。

5. 市民の代表として

～企業・行政に伝える～

公害を考える上で、3つの主体となるのが企業・

行政・市民である。これらがトライアングルを形成して、公害患者や公害関係団体はその中心に位置するものとする。すなわち、3つの主体を結び付け、それぞれに対して働きかけを行うのが、あおぞら財団の役割だ。実際そのことを強く意識する場面があった。

2000年9月27日・28日、私は全国公害被害者総行動デー（以下、総行動）に参加した。



これは全国の公害被害者などが「力を合わせて公害の根絶を」という呼びかけのもとに始めたもので、今回で25回目を数える。総行動では、まず、公害根絶や被害者救済をもとめるデモ行進をし、その後、各省庁やその担当局、財界、企業との交渉に臨んだ。私はその時、環境庁大気保全局と、経団連での交渉に同席した。そこで私が目にしたのは、役人に必死に訴えかける患者さんの姿だった。現在、国では交通渋滞を緩和すると銘打って、道路の拡張を行おうとしている。渋滞が緩和され、大気汚染も緩和されると言う。しかし、それではますます交通量が増え、結果として空気ももっと悪くなる、というのが患者さんの主張である。涙ながらに自分が大気汚染の結果経験した苦しみを訴え、そして何よりも、「子や孫に同じ苦しみを味わわせたくない」と泣き崩れた患者さんに、役人たちは何も言い返せなかった。

ここでは、市民と行政という2つの主体間の、「何を第一に考えるか」という認識のずれが浮き彫りにされている。市民にとってそれは、命や健康が保障されることである。では、「社会全体への奉仕」、「公の福祉」を調う行政が求めるものとは何か。本来ならば、それは社会の一員である市民一人一人にとっても利益となりうるはずである。しかし、実際

にそうであろうか。私の目には、行政は、社会「全体」としての利益を考えてはいても、そこに生じる「個」の不利益に目を向けていないように見える。「木を見て森を見ず」という言葉がある。「森」は瞬間であり全体である。「木」は歴史を持つ個である。現在の行政は「森を見て木を見ず」という態度をとる。「森」が良ければ、たとえ傷んだ「木」が多少あろうともよしとしているのだ。それがやがて「森」を侵食し、滅ぼすということにも気づかずに。「木を見て森を見る」—これこそが今後の行政のとるべき態度であると思う。

もちろん、個人で見ると、役人にも話を聞いてくれる人はいる。公害を認識し、患者さんの苦しみを理解している人もいるだろう。しかし、組織というレベルで見るとき、彼らはまだ、市民にとって完全に協力的とは言えない。この主体間の認識のずれを言明するために、市民の視点を持ったNPOが存在するのだ。そしてここで、国が許可する公益法人であり、行政とのパイプを持つNPO「あおぞら財団」の担う役割は大きい。

ここでは、私が実際に見た行政と市民との意見の食い違いについて触れたが、もう一つの主体である企業には、未だに交渉にすら応じないところもある。企業はこれまで、自身の成長や利潤を第一に求めてきた。しかし、時代は動く。今後は各主体が手を取り合い、公害・環境対策に乗り出さなければならない。昨今の環境ブームで、企業は自社のセールスポイントの一つとして環境対策を取り上げ、「環境報告書」の作成に力を入れるようになった。行政も、名古屋、尼崎での大気汚染裁判で、原告側が相次いで勝利し、環境行政のあり方を考え直す時期にきて

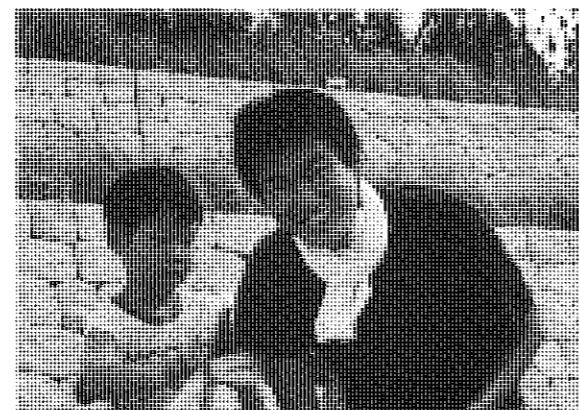
いる。これを単なる「ブーム」で終わらせないため、各主体に積極的に働きかけていくのが、今後のあおぞら財団の役割である。

6. 地域から全国へ、世界へ伝える

地域に生まれ、地域に密着した財団の活動が、総行動等の運動を通して全国へ、そして今、世界へ広がりがつつある。あおぞら財団では、毎年、海外からの研修生を受け入れ、彼らに対して公害の経験を伝えるという活動を行っている。アジアNIESをはじめ、いまや世界にはものすごい勢いで経済成長をとげている国々がある。それらの国々がキ日本がかつて高度経済成長期に負の遺産として経験した公害を起こすことのないよう、助言・情報提供をしていく必要がある。彼らがあおぞら財団で得た公害経験や情報を自国に持ち帰り、公害を無くす、または起こさないことが、あおぞら財団にとっての最大のフィードバックとなる。

7. おわりに

起こしてしまった過ちを取り消すことはできない。今のわれわれに求められているのは、この過ちを早く認め、二度と繰り返さないことだ。これがなされない限り、公害問題が本当に終わったとは言えない。すべての公害患者さんのために、今を生きるわれわれのために、そしてこれから生まれてくる子供たちのために、一日も早い、公害問題解決を願う。そして、たとえ解決された後でも、その経験は後世に伝えられていかねばならない。それこそが、公害を未来に起こさないための最短かつ最良の手段なのである。



▲エコクラブの子どもたちと矢倉海岸へも行きました

5

報告書と資料

■ あおぞら財団活動に関する報告書など ■

地域づくり調査研究事業

- 平成12年度環境事業団地球環境基金助成事業
『公害経験に関する学習教材の研究・作成事業報告書』2001年3月
- 平成12年度環境省請負業務
『つくってみよう 身のまわりの環境診断マップ』冊子2001年3月
- 西淀川の戦中・戦後展（自主事業）
『Libella』2000年9月、10月号（特集号）
『あおぞら通信』2000年秋季号
『西淀川の戦中・戦後展 展示品・その他提供品目録』2001年3月
『戦争体験作文集』2001年7月

道路環境対策事業

- 西淀川公害患者と家族の会からの委託
『公害被害者の願いとともに道路環境の改善をめざして』2000年10月
西淀川道路環境対策検討会の助言を受けて作成
- あおぞら財団2000年度助成研究
報告書『阪神地域における貨物自動車・環境TDMの提案』研究代表者：新田保次（大阪大学工学部）2001年3月
- 平成12年度環境省請負業務
『大阪市臨海部における統合的貨物交通環境管理政策に関する調査報告書』2001年3月

環境再生政策形成事業

- 平成12年度環境省請負業務
『サステナブル・コミュニティの推進に向けて』報告書2001年3月

環境保健推進事業

- 平成12年度環境省委託調査研究
- 『平成12年度園芸療法等を活用した環境保健施策のあり方に関する調査研究報告書』2001年3月

公害経験事業

- 公害健康被害補償予防協会委託調査研究
『2000年度・大気汚染対策に係る被害者・住民運動資料の保存・整理手法に関する調査研究報告書』2001年3月
『西淀川公害訴訟関係弁護団・住民運動資料第一次目録（第3集）』2001年3月
- 平成12年度環境事業団地球環境基金助成事業
ホームページ掲載『公害問題系住民運動・NGOのデータベース作成』2001年3月

情報発信・交流事業

- 平成12年度環境事業団地球環境基金助成事業
報告書『インドの環境NGOとの交流記録』2001年3月
- イオングループ環境財団助成事業
冊子『公害患者からみた日本の大気汚染公害（中国語版）』2001年3月

環境学習プログラム開発事業ほか

- 平成12年度環境事業団地球環境基金助成事業
紙芝居式パネル『西淀川公害に関する学習用パネル』2001年3月
- 国際コミュニケーション基金助成事業
ホームページ掲載『ホームページを活用した公害地域におけるフィールドミュージアム事業』2001年3月
- 平成12年度産学連携人材育成支援事業費助成金事業
『大学コンソーシアム京都インターンシッププログラムNPOコース』業務報告書2001年3月
『インターンの活動報告』『NPOスクールファイナルレポート まちへ出る まちに学ぶ』2001年3月
- 平成12年度アース基金協会助成事業
『アースデイイベントコンクール』実施報告書2000年5月

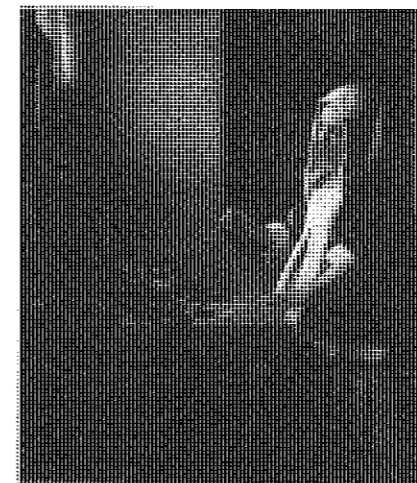
活動交流推進事業

- 平成12年度環境事業団委託事業
『地球環境市民大学校』業務報告書2001年3月
- 福井県鯖江市委託業務
『環境リーダー養成講座』業務報告書2001年3月

広報活動

- 『Libella』46～55
- 『あおぞら通信』1～4
- 『あおぞら財団年次報告書 Vol. 4（2000.4～2001.3）』

あおぞら財団のホームページアドレス <http://www.aozora.or.jp>



私のおきの出会い

2000年は日本とオランダが交流を始めて、400周年を迎えた年でした。これを記念し、4月4日から7月2日まで、大阪市立美術館にて、特別展覧会「(ヨハネス)フェルメール(1632-1675)とその時代展」が開催されました。

写真「天秤を持つ女」/1664年頃は、17世紀オランダ最高の絵画と数多く向き合った中で、私の心の振り子が「ストン」と落ちた作品です。主人公の女性の瞑想を描いた様子は、人の魂に「中庸を保ち、節度を持って」という深遠なメッセージを伝えます。
(矢羽田 薫)

「あおぞら財団」活動に関する資料

(2000. 4. 1 ~ 2001. 3. 31)

● 財団の活動に関する報道関連資料

2000. 04. 02 朝日(朝刊) CO₂削減へ動くNGO あおぞら財団大気汚染被害拡大許さない
2000. 04. 05 朝日(朝刊) 環境再生へ提言 あおぞら財団、5分野で 西淀川地域
2000. 04. 05 読賣(朝刊、大阪版) 住民の手で公害の街再生 西淀川をモデルケースも5つのテーマ示す
2000. 04. 06 産経(朝刊、大阪版) 西淀川の環境再生へ"提案"あおぞら財団
2000. 04. 06 京都(朝刊) 市街地を覆う排気ガス タイ・バンコクの実情を探る 目立つ呼吸器疾患 ビル建設や工場排煙が拍車
2000. 04. 06 京都(朝刊) 会議成功へ市民が後押し 国内外のNGOが期間中活発にシンポあやイベント
2000. 04. 06 読賣(朝刊) 環境大臣会合G8in大津 NOx汚染の広域調査要望 西淀川訴訟「あおぞら財団」各国担当者に提示へ
2000. 04. 07 毎日(朝刊) 環境大臣会合G8inびわこ「NGOの行こう、反映を」6団体政策担当者に主張へ
2000. 04. 08 読賣(朝刊) 環境大臣会合G8in大津 「志同じ」NGO直言10団体代表が懇談
2000. 04. 09 朝日(朝刊) 環境G8 NGOと公開討論「日本の公害経験生かせ」
2000. 04. 11 日経(朝刊) NGOの声宣言に反映 環境G8閉幕 淡水資源問題盛る 地域からの提言活発に
2000. 04. 13 読賣(朝刊) エコ掲示板 西淀自然文化大学
2000. 04. 13 物流ニッポン NOx排出8割がディーゼル化 西淀川調査具体策まだ消極的
2000. 04. 15 朝日(朝刊) G8環境相会合 温暖化防止「最多数の国、2002年」NGOから評価も
2000. 04. 20 毎日(朝刊) 記者の目(宇城昇、大津支局)G8環境大臣会合「環境再生」地域の熱意で"先進"琵琶湖も苦闘
2000. 04. 20 読賣(朝刊) エコ掲示板 ケナフで折り紙
2000. 06. 09 毎日(朝刊) 新たな公害招く恐れも 5省庁大気汚染対策あおぞら財団が見解
2000. 06. 09 神戸(朝刊) 阪神高速の料金格差計画 総量規制が必要 あおぞら財団意見書提出
2000. 06. 21 朝日(朝刊) 再発見の街「地図に」西淀川で来月8日自然・町並み調べる
2000. 06. 29 読賣(朝刊) エコ掲示板 街のたんけん・環境マップづくりを学ぼうー環境再生のまちづくりワークショップへ
2000. 07. 05 ライブタウン 夏休みに読もう「まちに自然を取り戻すには…」再生を考える本刊行、第2回身のまわりの環境マップコンクール
2000. 07. 13 THE JAPAN TIMES Kawaguchi to private-sector past
2000. 07. 20 朝日(朝刊) 環境庁長官、28年ぶり西淀川に幹線道など視察
2000. 07. 20 読賣(朝刊) 「排ガス対策進める」川口環境庁長官就任後発の来阪西淀川など視察
2000. 07. 20 産経(朝刊) 能勢のダイオキシン問題「いつでも疑問に答えたい」環境庁長官と会見
2000. 08. 08 読賣(朝刊) 「公害の街」西淀川見つめ直す あおぞら財団活動まとめ出版 環境再生や地域の歴史など
2000. 08. 08 読賣(朝刊) 国道の大型車規制試験実施など提案 大阪の環境NGO

- 2000.08.05 ライブタウン セミのぬけがら調べ、西淀川の戦中・戦後展、戦中・戦後を語る会
- 2000.08.13 朝日(朝刊) 花を育てて地域の和に コミュニティガーデン各地に
- 2000.08.24 読賣(朝刊) 「公害の街」に残るもの言わぬ語り部 西淀川の戦中・戦後展
- 2000.08.24 産経(朝刊) 写真や民具500点で紹介 西淀川の戦中・戦後展始まる
- 2000.08.25 朝日(朝刊) 空襲の恐ろしさパネルで紹介 西淀川で戦中・戦後展
- 2000.09.05 朝日(朝刊) 公害から環境のまちへ 西淀川再生へ相次ぎ試み 身近な自然「マップ」に 公害訴訟原告ら「あおぞら財団」普及へ冊子編集
住民動き都会の楽園に 矢倉海岸に「緑地公園」完成 天然石使い荒磯・潮だまり整備
- 2000.09.26 朝日(朝刊) 社説 尼崎公害訴訟 被害の継続は許されぬ
- 2000.11.10 朝日(夕刊) 西淀川公害訴訟闘いの跡記録に 元原告ら遺稿や傘…6000点〔資料保存〕
- 2000.11.17 朝日(夕刊) 生き生き暮らせる青空を 大阪・西淀川公害訴訟原告らの思いを1冊に 30年間の苦しみつづる 青い空の記憶〔患者会出版〕
- 2000.11.26 読賣(朝刊) 「交差点人より車優先」西淀川の歌島橋 地元の小学生らが調査
- 2000.12.01 産経、読賣、朝日 尼崎公害訴訟和解〔コメント〕
- 2000.12.02 朝日、読賣(朝刊) 社説
- 2000.12.02 朝日(朝刊) 園芸療法で健康づくり 西淀川の「あおぞら財団」公害患者10人らサツマイモを収穫
- 2000.12.03 朝日(朝刊) 尼崎公害訴訟和解へ(下) 澄んだ空を
- 2000.12.05 毎日(朝刊) 青空の21世紀を 尼崎公害訴訟和解4「人」優先の一步から 街の再生〔ふくの庭〕
- 2000.01.28 産経(朝刊) 通行料金差別化で大気汚染抑制「ロードプライシング」効果的に「あおぞら財団」
2000社アンケート具体的料金設定を質問湾岸線への誘導探る
- 2001.02.20 朝日(朝刊) シンポジウム「公害の歴史に学ぶ」〔案内欄〕
- 2001.02.25 読賣(朝刊) 反対運動、理論で支えた学者3人公害語るー中央区であすシンポ
- 2001.03.25 大阪商工会議所「大商ニュース」 めざそうオンリーワン都市51高度成長期の裏側見よ 公害経験は貴重な情報(芝村篤樹)

● 財団の成果品の書評

- 「大気汚染公害と公害被害者運動がわかる本、大気汚染公害Q&A」(『住民と自治』6月446号)
「都市に自然をとりもどすー市民参加ですすめる環境再生のまちづくり」(『ヒューマンライツ』6月号) 147

● 理事長の対外活動

◆ 講演

「西淀川の人々のくらしと健康ー公害地域再生にむかってー」(2000.06.22、花園大学社会福祉学部逢坂ゼミ保健社会学講座)

◆ 外部の委員

第5回世界閉鎖性海域環境保全会議(01.11.19~22)運営委員

● 職員の対外活動

■ 傘木宏夫

◆ 外部での発表、講演等

- 「西淀川地域の環境再生とおおぞら財団の役割」(2000.4.1、第19回日本環境会議第1分科会発表)
- 「環境保全・創造の施策が現場に反映されるために行政内調整機能と住民意見形成支援機能の整備を」
(2000.4.14、瀬戸内海保全計画の変更に関する意見)
- 「環境再生のまちづくり～おおぞら財団の挑戦～」(2000.5.17、地域デザイン研究会講演)
- 「市民による環境診断の意義と方法」(2000.5.20、第二期春日井市環境ゼミナール)
- 「公害被害者運動と地域再生の活動」(2000.6.20、滋賀大学経済学部「環境と社会」)
- 「環境アセスメント法と市民活動」(2000.7.11、水島地域環境再生財団「市民による環境アセスメント学習会」)
- 「神鋼石炭火力発電所はポーアイにどんな影響を与えるか」(2000.7.23、火力発電問題を考える会)
- 「緑をとりいれたまちづくり」(2000.7.25、西淀自然文化大学講座)
- 「瀬戸内海の環境保全と住民団体の役割」(2000.8.3、平成12年度瀬戸内海の環境保全に関する衛生団体の合同研修会)
- 「地域再生という実験～おおぞら財団の取組みから～」(2000.8.21、第30回<環境と公害>教育研究・水島集会、記念講演)
- 「NPOのTDM提案に対する住民及び事業所経営者の意識動向」(2000.9.22、日本計画行政学会第23回全国大会)
- 「みどりとコミュニティづくり」(2000.10.5、芦屋市民街づくり連絡会「みどりのまちづくり連続5回セミナー」)
- 「市民が進める環境アセスメント」(2000.11.22、神戸市シルバーカレッジ・生活環境コース)
- 「地域の環境資源を掘り起こす市民活動」(2000.12.3、住みよい二見をつくる会「まちづくり学習会」)
- 「神戸製鋼所と神戸市による『環境保全協定』を読んで」(2000.12.7、神戸製鋼火力発電公害問題中央区連絡会)
- 「調べてみようまちのすがたと環境」(2001.2.18、ボーイスカウト淀川北地区環境セミナー)
- 「西淀川のまちづくりと自治体労働者にのぞむこと」(2001.3.8、大阪市役所労働組合西淀川区協議会総会記念講演)

◆ 外部依頼原稿

- 「環境NGOと大学の連携を考える～学生のNGO活動への参加を事例に～」(『環境技術』5月号)
- 「まちの魅力をほりおこす「たんけん隊」」(『月刊女性&運動』5月号)
- 「公害被害者とともに進める環境再生まちづくり」(『経済科学通信』93号特集「環境・市民・公共事業」)
- 「公害被害者とともに進める環境再生のまちづくり」(『経済科学通信』2000.8) 93特集「環境・市民・公共事業」)
- 「NGO紹介」(日本環境法律家連盟『環境と正義』2000.11号)
- 「公害地域における市民主体の環境再生まちづくり」(京阪神都市フォーラム・ブックレット1999-2000)
- 「地域再生活動の現場から」(交通権学会『交通権』第18号・巻頭言、2001.3)
- 「被害者の視点からの調査研究と政策提言」(日本NPOセンター「NPOの調査研究能力をどう高めるか～米国と日本の事例から～」、2001.3.29)

◆ 各種審議会への意見書提出・陳述

- 「『自動車NOx総量削減方策検討会報告書』を読んで」(2000.7.7、中央環境審議会大気・交通公害合同部会意見交換会)

「『道路交通騒音対策の充実強化について(中間とりまとめ)』を読んで」(2000.8.25、中央環境審議会騒音部会)

「『今後の自動車排ガス総合対策中間報告』への意見」(2000.10.5、中央環境審議会大気・交通公害合同部会)

「『新環境基本計画中間とりまとめ』に対する意見」(2000.10.5、中央環境審議会企画政策部会)

「新しい環境総合計画に関する意見」(2000.11.14、大阪府環境審議会新環境総合計画部会)

「新環境基本計画のとりまとめに関する緊急要請」(2000.11.27)

「『今後の自動車排ガス総合対策のあり方について』への意見」(2000.12.5、中央環境審議会大気・交通公害合同部会)

◆ 外部の委員

- 第5回世界閉鎖性海域環境保全会議(01.11.19～22)プログラム部会委員、関連事業部会委員
- 平成12年度瀬戸内海環境保全・創造計画策定委員会委員
- サステイナブルコミュニティ研究会委員(コーディネーター)

■ 片岡法子

◆ 外部発表論文

「戦後・大阪市西淀川地域における大気汚染問題と住民運動」(地方史研究協議会編『巨大都市大阪と榎河泉』雄山閣出版、2000年10月→'99年10月の学会発表論文)

◆ 外部の委員

- 平成12年度大阪府こどもエコクラブ活動支援事業検討委員

■ 達脇明子

◆ 外部での発表

「西淀川の戦中・戦後展」を開催して(2000.11.5、15年戦争研究会第38回例会)

◆ 外部依頼原稿

「環境庁文書など公害・環境問題資料の保存に関する活動について」(地方史研究協議会『地方史研究』289号、2001年2月)

「西淀川の戦中・戦後展を開催して」(関西大学『関西大学博物館紀要』第7号、2001年3月)

「おおぞら財団のこの1年の活動と展望について」(公害弁連第30回総会議案書、2001.3.24)

◆ 外部の委員

- 大阪人権博物館(リパティおおさか)第3次基本計画策定委員会ワーキングチーム委員

■ 矢羽田薫

◆ 外部での発表

「園芸療法の実践～「ふくの庭」での取り組み～」(2001.2.25、第4回園芸療法研究会西日本研究・実践発表会)